

〔資料〕

# 妙幢淨慧撰『佛神感應錄』翻刻と解題(二)

阿部美香・大久保美玲・塚本あゆみ・関口静雄

## 〔解題〕

### 淨慧の周縁①

妙幢淨慧が獨湛性瑩と何らかのつながりを持つことは十分に考えられるという。獨湛(一六二八―一七〇六)は明国福建省興化府の人で、母の歿後、十六歳のとき梧山積雲寺衣珠のもとで剃染し、二十四歳のとき黄檗山の隱元隆琦(一五九二―一六七三)に謁し、承応三年(一六五四)七月五日、二十七歳のとき隱元にしたがって来日した。山城国宇治に黄檗山萬福寺を開いた隱元の念仏禅を受け継ぎ、禅と念仏をとともに修める禪淨双修を實踐し、後世には念仏獨湛と称された。寛文五年(一六六五)遠江国浜松に五千余石を領する旗本近藤登之助貞用(法名語石。一六〇六―一六九六)の帰依を受けて初山宝林寺を開き、その住持位を十八年間つとめた。天和元年(一六八二)十月慧林性機(一六〇九―一六八二)の跡を継いで黄檗山の第四代住持となり、元禄五年(一六九二)一月高泉性激(一六三三―一六九五)に法席を譲って山内獅子林院に退隱した。退隱後の元禄十一年六月『当麻曼陀丸塔宝引』一卷を著して当麻曼陀羅から散った糸くずを集めて宝塔に収めた経緯とその効験利益を記し、同十四年十二月『当麻寺化仏織藕絲西方聖境図説』(内題『日本大和州当麻寺藕絲西方境縁起説』)一卷を華頂山知恩院の良照義山(一六四八―一七一七)の募縁を得て開版した。また同十五年夏には当麻寺を目指して大和の靈場巡拝に旅立ち、東大寺盧舎那仏・二月堂・春日大社を拝し、途中郡山の西岸寺主明誉古磻(一六五三―一七一七)の歓待を受け、葛城山を越え当麻寺に至って濯藕井を見、「西方之圖」すなわち当麻曼陀羅を展覧した。曼陀羅開拝によって深く紫雲の境地に入る心地を得たと感激し、同十六年正月には良照義山の道友無塵居士をして洛東錦綾山聖光寺蔵の青海曼陀羅を臨写せしめ、これに『青海曼陀羅縁起』を書き添えた。さらに宝永元年(一七〇四)九月、『勸修作福念仏図説』の第一版

を、第二版を十一月に獅子林院から印施した。同二年秋八月半ばに微疾を得、十一月には徳川六代将軍家宣より紫衣を賜ったが、翌三年正月二十七日辰時、「我有二一句。別于大衆。若問二何句。不説不説。」と遺偈して獅子林院に寂し、そこに葬られた。僧夏五十四、世寿七十九。

※

妙幢淨慧が獨湛性瑩とその行実には深い関心を抱いていたことは『佛神感應錄』後集卷十二に獨湛にかかわる話が一まとまりに収録されていることから明らかだ。すなわち、

- 一 阿彌陀經讀誦ノ功ニ由金殿ニ積經ヲユメミル事
- 二 獨湛禪師ノ行畧及本國ニテ識文ノ事
- 三 蓮社ノ七祖ノ事
- 四 本朝三曼陀羅ノ事

の各項各話はいずれも獨湛の行実にかかわることから派生し、連想連環して草されたもののように思われる。

右のうち、一「阿彌陀經讀誦ノ功ニ由金殿ニ積經ヲユメミル事」の主人公は獨湛である。獨湛の見た夢をめぐる話柄であって、淨慧は一文の冒頭に概要、「黄檗獅子林の獨湛禪師は平生禪誦のほか阿彌陀經四十八卷誦誦を日課にしていたが、ある日子細があって誦誦を怠った。その夜、偶然として玉楼金殿に行った夢を見た。莊嚴光眩な殿内には重々の棚があって玉軸の経巻が積み重ねられていた。しかし楼を一層登ったところ、その棚にはまったく経巻が置かれていなかった。傍らに立っていた僧にその理由を尋ねると、満架に積まれた経巻は日本国裏の獨湛が誦誦した阿彌陀經で、空棚は獨湛が他人よりの支障によって誦誦を懈怠したためであるという。夢覚めた獨湛はこの夢に感激し、以後は日々増々怠らず励んだ。」と獨湛の見た夢の内容を記し、次いで、

コノコトヲヒソカニ高弟自光等ニカタリ玉ヘリ。自光モ亦師ノ慈誨ヲ受。  
乃湛禪師亡母追薦ノタメニ自書玉ヘル。阿彌陀經ヲ請得テ十萬卷ヲ讀ト發  
願アリキ。聞説數年以前ステニ願ヲ畢ト。  
獨湛和尚ノ行略ノ中ニ和尚ノ高弟圓通師ノ晃自光師命ヲ奉テ小阿彌陀經十萬部讀  
ジ訖ト記セル是ナリ。

と獨湛がみずから夢のことをひそかに高弟自光らに語ったこと、それを師の慈誨と受け止めた自光が、師獨湛が亡母追薦のために書写した阿彌陀經を請い受け、その十萬卷誦誦を發願したこと、聞くところによると自光は數年前すでにその願を成就していること、また自光が阿彌陀經十萬部誦誦を成就したことは獨湛の高弟円通撰『黄檗第四代獨湛和尚行略』に記載があると伝えている。

淨慧にはなにごとか一文を草するときその出典や依拠文献をきわめて几帳面に記す出典主義的考証癖があるが、右の獨湛の夢についてはそれがなく、また管見では『佛神感應錄』のほかには見当たらないから、この獨湛の夢をめぐる話は、文意からみて淨慧はおそらく獨湛の高弟自光から直接聞いたのであろうと思われる。そうであれば、師獨湛が書写した阿彌陀經を請い受け、その十萬卷誦誦を發願した自光は數年前すでに誦誦し終えているというから、夢告を得た獨湛が修行に精勵したことをみずから教誨を込めて若い弟子たちに語ったのは初山宝林寺在住時のことであつたはずで、淨慧がそれを自光から聞いたのも、おそらく獨湛存命中のことであつたと思われる。文献資料に確たる証左は見出せないが、ほかでもなく獨湛と淨慧とともに黄檗派の禅僧なのであり、たびたび催される諸行事には僧位役職に差はあつても、ともに参会したのであるから淨慧が獨湛と面識があり、その警咳に触れてもいたと推量しても不当ではあるまい。

しかし自光から聞いた話を淨慧はすぐには一文に草しなかつた。少しの躊躇があつたのである。それは淨慧の考証癖を考えれば、淨慧が当然見ていたはずの『初山獨湛禪師行由』に獨湛の夢の話が記載されていなかったからである。『初山獨湛禪師行由』は獨湛の侍者無住道立（一六四四—一六九九）と副寺石窓道鏗（一六三八—一七〇四）の二人が編録した獨湛の生誕から寛文九年（一六六九）四十二歳にいたる半生記であつて、獨湛の生存中に刊行されたものである。獨湛も目を通していたと推測でき、その記述

は確かなものだと考えられる。そこに自光の言辭を証する記述がなかつた。しかしそれが、獨湛示寂の二ヵ月後の宝永三年（一七〇六）春三月に獨湛の高弟宝寿道成円通（一六四三—一七二六）が悲泣のうちに撰した『黄檗第四代獨湛和尚行略』に、「晃自光奉ニ師命ヲ誦ニ小阿彌陀經十萬部ヲ訖」と記述されていたことから淨慧は自光の言辭が事実だつたと得心したのであり、それを機に禅淨双修を實踐した獨湛の本質を伝えるものとして獨湛の阿彌陀經誦誦の功業にまつわる夢告について一文を草したものと考えられる。

※

淨慧は獨湛の夢の話に連環して『元亨釈書』卷十九「願雜」に載る比叡山宝幢院の道乗が見た夢の話を引きいている。道乗は少年のころからつねに法華經を持誦する懈怠ない法華持經者であつたが、嗔恚の心が強く周辺に麁語驚罵を撒き散らす男だつた。その道乗が金樓銀閣に黄卷赤軸金銀泥書の無量の經典が填置されている夢を見た。道乗は夢中で傍らの老比丘にこの経閣は誰が造つたものかと問うたところ、「これは汝が年来讀んだもので、その善力によつて淨利に生まれるであろう」という。これを聞いて道乗は喜悅したが、その刹那たちまち火が起き経樓は灰燼となつてしまつた。道乗がまたそのわけを尋ねると、老比丘は「それは汝が嗔れる時も經を所持していたからで、誦誦の功が多いといつても焼焚に遭つたのだ。もしも嗔恚の心を息めることができれば安養に生ずることができる」という。夢覚めた道乗は懼悔し、以後は仏前で嗔忿を止め、懇ろに持經したという。この話を引いて、淨慧は「湛禪師ハ一日ノ懈怠ニ由リテ架上ノ空虛ナルヲミ至ヘリ。其感報ノ空ザル。天人コレヲ示ナラン。並ニコレ一僧アツテハ傍ニ立コレ其驗ナリ。」と結んでゐる。ここに淨慧が経卷誦誦の功と懈怠にはそれぞれかならず天の感報が存すると考えていたことが知られ、それが淨慧にとつてきわめて重大な関心事であつたことは、獨湛が阿彌陀經誦誦の功によつて夢告を得た話を、次章に続く獨湛の略歴行業譚や曼陀羅譚に先行して配置していることから明らかである。

淨慧は経卷誦誦の効驗利益について、卷十二「最勝王經流水長者放生ノ事」に次のような話を載せてゐる。明の宗本が禅と念仏の一元化を主張した古来の説九十七篇を集めた『帰元直指集』に載る一話であるが、概要、「宋の紹興年中（一一三一—一一六二）のこと、淮陰という所で民家の

娘が死んだ。しかし家貧しく追善供養もできなかった。老母は髪を截って売り銭六百元を得、僧を頼んで供養の仏事をしようと、折から連れ立ち歩く四人の僧に頼んだが断られた。遅れて来た仲間の一僧が老母の依頼に応え金光明經一部を誦誦してくれた。その僧は布施銭を得ると四人の僧と酒家に入り一盃飲もうとしたその時、窓の外から『誦經ノ僧酒ヲノムコトナカレ』という声があった。僧が誰かと尋ねると、泣き悲しむ声で『我ハコレ今看經シ王ヒシ家ノ亡女ナリ。我久冥路ニ淪。然ニ師向ニヨミ王ヘル經ノ功德ニヨツテ罪ヲマヌカレテ超昇スルコトヲ得タリ。シカルニ又酒ヲ飲齋ヲ破玉ハ。我モトノゴトクニ沉ヲチナン』と言い放って姿を消した。五人の僧は驚き愧じて、以後は持斎し參禪念仏して遂には果證を得たということだ。』という内容で、淨慧はこの話を引いて、「コレコノ經ヲ世ノ災ヲ攘國ノ祥ヲ長スルノニアラス。ソノ滅罪追薦ノ功速ナルコトカクノゴトシ。コレ大乘經不思議ノ威力ナリ。」と記している。ここに淨慧の大乗經典とその誦誦についての考えが明確に示されている。

獨湛の夢、叡山道乗の夢に継いで、淨慧は隱元禪師の『広録』卷三十をもとに惟一禪師の見た夢について言及している。惟一道実(一六二〇—一六九二)は福建省福州府の累代將軍の家に生まれた人で、十七歳のとき病革の母のために自身の股肉を割いて薬餌に与えたという。妻と一子、また父を喪って脱俗し隱元に就いて出家した。承応三年(一六五四)隱元に從つて来日したが翌年古黄檗に帰り、寛文元年(一六六一)高泉性激らとともに再び来日した。号を華嚴道人と称したように、日々鮮血を瀝いで華嚴經八十一卷を血書したので世人は華嚴菩薩と賛した。この惟一禪師が華嚴經血書書写を始めて三年を経て四十巻ばかり書写したころ、隱元禪師がその勞働をいたわって昼とは別に夜薬石を撰らしめた。するとある夜、惟一禪師の夢に緊那羅王菩薩が厨の齋食を監護する監齋童子に化して現れ、惟一の口に紙を塞ぎ貼って飯銭を請求した。惟一が尋ねると童子は自分の身を明かし、飯銭は一小金(一分金)だという。実は惟一は許された夜薬石のほかに独りひそかに夜食を撰っていたのだ。惟一はその行いの誤りを懺悔して夜が明けると典座庫司に片金を差し出して償った。この話を伝え聞いた隱元禪師は夜薬石を許した自分の不明を深く反省し、法華經誦誦に精進する智超法師の夢に文殊菩薩が童子に化現して、經卷を手に取る前には必ずよく手を洗うことの大切さを教えた例を挙げて、

菩薩化現シテ人ヲ教ハ。必ソノ人徳アリ行アルモノニ乃指シカモコレヲ教王ヘリ。若平素一徳ノ取ベク一行ノ嘉ベキナキトキハ。イツクンゾヨク菩薩化現シテ人ニ教ノ理ヲ感ゼン。

と云い、これを大衆の面前に貼って戒めにしたという。

淨慧は隱元禪師の『広録』に載る惟一道実にまつわって隱元が示した教誨をもって「阿彌陀經誦功ニ由金殿ニ積經ユメミル事」の一文を結んでいるが、淨慧は大乗經典そのものに不思議の威力が存し、その誦誦には世の災を攘い、国家の祥を長ずるだけでなく、滅罪追薦の速やかな功のあることなど種々の功德があると考えていたのであり、またその根本には僧として戒律を守り徳を積むことが肝要であり、そうでなければ天や仏菩薩の夢中の教誨は得られぬと理解していたのである。だから獨湛が夢中に天人の教誨を受け、覚後にさらに仏道に精進したのは徳あつてのことであると賛しているのであつて、おそらくこの獨湛の夢をめぐる一文は獨湛追悼の意を込めて草したものと思われる。(関口)

〔注〕

- 1 西田耕三氏『近世の僧と文学―妙は唯その人に存す』(平成二十二年二月、ペリかん社)五一頁。
- 2 『佛神感應錄』卷十二。円通道成編『黄檗第四代獨湛和尚行略』には「我有一句別于大衆。若問。何句不説不説」とある。なお『佛神感應錄』後集は名古屋大学図書館蔵本に據り、『黄檗第四代獨湛和尚行略』は田中実マルコス氏『黄檗禪と浄土教―萬福寺第四祖獨湛の思想と行動』(平成二十六年二月、法蔵館)付編『獨湛全集』所載影印に據る。
- 3 田中実マルコス氏前掲書四〇頁。

〔付記〕 田中実マルコス氏には貴重な資料を賜った。記して篤く御礼申し上げる。

〔翻刻凡例〕

- 一、昭和女子大学図書館蔵『佛神感應錄』前集八卷八冊本を底本とした。
- 一、可能なかぎり原文の表記を尊重し、明らかな誤刻もそのまま翻刻したが、「一」(コト)等の合字は通行の表記に改め、摺墨の濃淡等による判読不能の文字は字数分の空格(□)を置いた。
- 一、半丁ごとに丁数を示し、各話末行と次話題との間に空行を置いた。

三國 佛神感應錄 卷第三

③表表紙題簽 (白丁) ③表表紙見返

佛神感應錄卷第三目錄

- 一 内宮外宮ノ御事
- 二 外宮異説ノ事
- 三 天照太神宮靈驗ノ事
- 四 聖武皇帝大佛建立ヲ太神ニ窺玉フ事
- 五 神道ト儒教ト習合ノ事
- 六 三種ノ神器智仁勇ノ三徳ニ配スル事
- 七 根ノ國底國ノ事

③01オ

(白丁) ③01ウ

佛神感應錄卷第三

一 内宮外宮ノ御事

抑内宮ト申タテマツルハ。天照太神是ナリ。度會ノ延佳ガ云。始ハ天  
 兒屋根命太玉命ヲ左右ノ相殿ノ神ト申奉シヲ。外宮御鎮座以後故ア  
 リテ。外宮ヘ移奉。天ノ手力雄ノ命ト萬幡豊秋津姫命ヲ左右ノ相  
 殿ト申シ。皇太神宮ト名ヅケ奉。今ノ内宮是ナリトイヘリ。又其伊勢  
 ノ國度會郡五十鈴川ニ宮所ヲトサセ玉ヘル。猶ソノ濫觴ヲタヅヌルニ。  
 昔人皇第十代崇神天皇ノ御時。神代ヨリノ審鏡及靈劔ヲ。皇女豊鋤入  
 姫命ニ付玉ヒテ。審鏡神劔ヲ改ツクラシメテ其ヲ内裏太倭ノ笠縫ノ邑ト云  
 トコロニ。籬ヲ建テ崇奉ラル。ソノ後太神ノ教アルニ任。神體ヲ頂

戴シテ。國々所々ヲ廻リテ宮ドコロヲ求玉ヒツ。先丹波ノ國吉佐ノ  
 宮ニ移玉ヒ。コノトコロニ四年齋ヲテマツレリ。ソレヨリ大和ノ國伊豆  
 カシノ宮ニ移玉ヒ。コノトコロニ四年齋ヲテマツレリ。ソレヨリ大和ノ國伊豆  
 加志本ノ宮ニウツリ玉ヒテ八年ヲハス。コレヨリ所々ニウツリ玉フコト。乃至倭ノ彌  
 和ノ三室ノ峰ノ宮ニ移玉ヒテ二年マシマセリ。又倭姫ノ世紀ヲ按ズルニ。  
 コノ時豊鋤入姫命云。吾日足ヌトテ乃倭姫ノ命ニ渡奉玉ヒヌ

按ズルニ大倭姫ト稱スルニ同名異人ヲホシシ。或ハ孝靈帝ノ姫宮ヲ倭迹迹日百襲姫ノ命ト稱シ又ハ孝元帝ノ  
 女崇神帝ノ女垂仁帝ノ女ナラビニ大和姫ノ稱アリ共ニ日本紀ニミエタリ又鎮座本紀ニハ開化天皇ノ時  
 ノ化女ヲ大和姫ノ命ト稱シ又日本紀ニ崇神天皇ノ御姨ニ聰明ナル大和姫ト号スルヲハスイヅレモ大和ト云  
 下ニ御名ノカハリハヲハスレド畧シテハ皆大和姫ト稱スルナレバ紛シカラザルニアラス今此ニ云ルハ垂  
 仁天皇ノ女ニ宮ニテワタラセ玉フ日本書紀ニ精コレスナハ

仁天皇ノ女ニ宮ニテワタラセ玉フ日本書紀ニ精コレスナハ  
 仁天皇ノ女ニ宮ニテワタラセ玉フ日本書紀ニ精コレスナハ  
 仁天皇ノ女ニ宮ニテワタラセ玉フ日本書紀ニ精コレスナハ

ノ命トモ名ツクコノ命ソノムカシ瓊々杵ノ尊ノ天降マズ時道ニムカヘタテマツリ玉フ神ナリソノ時吾ハ伊勢ノ狹長田ノ五十鈴ノ川ニイタルベシト玉ヒシコト、ニアラハレ玉フコトムカシノ因縁ニ由ナラン一説ニ倭姫ニツゲ玉フハ狹田彦ノ命ノ裔ニ宇治土公ノ祖大田ノ命ナリト云コレ

又日本紀ニイデタリ北畠嗣三ノ説ニ云ク逆矛金鈴ハ酒殿ニヲサメラレキトモ云  
又瀧祭ノ神ト申スハ龍神ナリソノ神アツカリテ地中ニヲサメタリトモ云一ニハ大倭ノ龍田ノ神ハコノ瀧祭ト同體ニマスコノ神ノアツカリ玉ヘルノ柱國ノ柱ト云御名アリトモ云ムカシ磯取處島ニ持クダリ玉ヒシコトハ明ナリ世ニツタフト云コトハスラボツカナシ天孫ノシタガヘ玉フナラバ神代ヨリ三種ノ神器ノゴトクツタヘ玉フベシサシハナレテ五十鈴ノ河上ニアリケンモヲボツカナシ但古語拾遺ノコ、ロニハ天孫モ矛ト玉トミツカラシタガヘ玉フト云コトミ、エタリシカレトモ矛モ大汝ノ神ノタテマツルハ、玉ヲタイラゲシ矛モアレバイツレト云コト知ガタシ靈山ニトマリテ不動ノシルシトナリケンコトヤ正説ナルベカラシ龍田モ靈山チカキ處ナレハ龍神ヲ天柱、又外宮ト申シタテマツルハ、豐受ノ皇國柱トイヘルモ漢秘ノ心アルベキニヤト云リ

太神 卽國常立ノ尊ナリ。神社考ニ云ムカシ豐鋤入姫ノ命。天照太神ヲ戴テ丹波ノ與佐ノ宮ニイタリ玉フ時。コノ神天ヨリ降玉ヒテ同一處ニ在。四年ヲ歷テ太神ハヒトリ太和ニカヘラセ玉ヒ。コノ神丹波ニトマリ玉ヒテ。道主命コレヲ祭タテマツラル。又倭姫ノ世紀ヲ按ズルニ。雄略天皇ノ御宇丹一年丁己冬十月ニ

天照太神大和姫命ノ夢ニ告玉ハク。止由氣太神ヲ御坐トコロヘ迎サセ玉ハントヲボスト。大和姫ノ命夢サメテ。大若子ヲシテ夢ノ御告ヲ奏セサセ玉フ。夢中ノ御詞ナガシ略。天皇乃大若子ニ勅シテ寶殿ヲ構シメ。明年ノ秋大佐佐命ヲモツテ丹波ノ國余佐ノ郡眞井原ヨリ止由氣太神ヲ。度遇ノ山田ノ原ニ迎タテマツラル。按ズルニ丹後風土記ニ與謝ノ郡比治山ノ頂ニ井アリ。正統紀ニイハク。垂仁帝ノ御宇ニ皇太神五十鈴ノ宮ニウツリ玉ヒテヨリ。コノ

年ニ至マデ既ニ四百八十餘年神武帝ヨリ。殆千百餘年ナリ。大和姫命ナヲ存玉ヒシカバ。内外宮ノツクリモ日ノ小宮ノ圖形文形ニヨリテナサセ玉ヒケリトゾ陽復記

ニ云瓊々杵ノ尊ヲ東ノ相殿トシ。天兒屋根命太玉ノ命モ瓊々杵ノ尊ニシヒテ西ノ相殿トシテ御同殿ニ在。豐受皇大神宮ト名付タテマツル。今ノ外宮コレナリト云々

ニ云瓊々杵ノ尊ヲ東ノ相殿トシ。天兒屋根命太玉ノ命モ瓊々杵ノ尊ニシヒテ西ノ相殿トシテ御同殿ニ在。豐受皇大神宮ト名付タテマツル。今ノ外宮コレナリト云々

ニ云瓊々杵ノ尊ヲ東ノ相殿トシ。天兒屋根命太玉ノ命モ瓊々杵ノ尊ニシヒテ西ノ相殿トシテ御同殿ニ在。豐受皇大神宮ト名付タテマツル。今ノ外宮コレナリト云々

### 三 外宮異説ノ事

問テ云。内宮ハ日神。外宮ハ月神ニ在トイヘバ。是月讀ノ尊ニテ在ナラン。ナンゾ國常立ノ尊ト云ヤ。按ズルニ月讀ノ尊ハ男神ナリ蓋天照太神ハ女神ニシテ日輪ナルハ陽中ニ陰アル心コノ尊ハ男神ニシテ月輪ナルハ陰中ニ陽ヲ含ノ心ナラン漢意ナラ思ベシ日本紀ニ伊弉諾ノ尊ノ日輪讀ノ尊ハ瀧海ノ鹽ノ八百重ヲ治スベシト云々ト部ノ兼俱ノ記ニ云三日ヨリ八日マデヲ月弓ノ尊ト云上弦ノ月是ナリ并三日ヨリ九日マデヲ下弦ノ月ト云十五日圓滿ノ月ハ月夜見ノ尊ト云晦日ノ月ヲ月讀ノ尊ト申スト云々コレ義ニ由テ文字ノワタラエ外宮ノ神カハリアルコトヲシルセリコノ尊ノコト委ハ神書ノゴトシ其光日ニ亞ト云々 度會ノ延佳官ナリ

通ジテ云。コノ事漢祕ノソノ一ナレドモ。祠官タガヒニ其神ノ徳ヲアラソヒ。世ノ人モ亦マドフ事ナレバ。略ソノ子細ヲ云ベシ。尊神御出生ノ次第ヲイヘバ。外宮ハ先ニシテ國常立ノ尊。内宮ハ後ニシテ天照太神ナリ。又御鎮座ヲイヘバ。内宮ハ先ニシテ。外宮ハ内宮ノ御告ニヨリ後ニ御鎮座ナリ。對スル時ハ内宮ヲ日神ト号シ。外宮ヲ月神ト号ス。月神ト申シタテマツルトテ月讀ノ尊ノ御事ニテハナシ。國常立ノ尊ハ一水ノ徳ノ神ニテ在故ニ。内宮火徳ノ日神ニ對シテ。外宮水徳ノ月神ト習事ナリ。月讀尊ハ内宮ニモ。外宮ニモ別宮ニ在バ。惑ベキ事ナラズ。猶フカキ習アリ。或ハ皇孫尊相殿ニマシマス事ヲ知デ。外宮ハ皇孫尊ニテマシマスト云人アリ。或ハ丹州奈具ノ社ノ神ヲ御饌都ノ神トイヘバ。外宮御氣津ノ神ノ尊

号ト相通ズルユヘニ。水ハ御氣津ノ略語ナルコトヲ辨スシテ。外宮ハ奈具ノ社ノ天女ト同體ノ神ニテ在ナド云族モアリ。奈具ノ社ノ天女ハ。外宮ノ酒殿ニテマシマスナリ。件ノ子細ハ其祠官ナラズシテ。アマネク人ノシルベキコトナラネド。世ノ人ニ宮ヲ偏頗シテ思カタモアレバシルスナリ。天照トハ二宮ノ通稱。太神ハ大廟ノ本号トモ。古記ニ侍ハ。彌偏頗スベカラザル事歟。祠官サヘモソノ故ワキマヘズ。往々ニソノ神ノ高卑ヲアラソフ。二所尊神ノ御心ニカナヒガタキ事ナラン。陰陽晝夜兩眼兩手イヅレヲ廢シテ可ナランヤ。二宮一光ノ理ヨク辨ベシ。カタソギノ

ノ事漢祕ノソノ一ナレドモ。祠官タガヒニ其神ノ徳ヲアラソヒ。世ノ人モ亦マドフ事ナレバ。略ソノ子細ヲ云ベシ。尊神御出生ノ次第ヲイヘバ。外宮ハ先ニシテ國常立ノ尊。内宮ハ後ニシテ天照太神ナリ。又御鎮座ヲイヘバ。内宮ハ先ニシテ。外宮ハ内宮ノ御告ニヨリ後ニ御鎮座ナリ。對スル時ハ内宮ヲ日神ト号シ。外宮ヲ月神ト号ス。月神ト申シタテマツルトテ月讀ノ尊ノ御事ニテハナシ。國常立ノ尊ハ一水ノ徳ノ神ニテ在故ニ。内宮火徳ノ日神ニ對シテ。外宮水徳ノ月神ト習事ナリ。月讀尊ハ内宮ニモ。外宮ニモ別宮ニ在バ。惑ベキ事ナラズ。猶フカキ習アリ。或ハ皇孫尊相殿ニマシマス事ヲ知デ。外宮ハ皇孫尊ニテマシマスト云人アリ。或ハ丹州奈具ノ社ノ神ヲ御饌都ノ神トイヘバ。外宮御氣津ノ神ノ尊

号ト相通ズルユヘニ。水ハ御氣津ノ略語ナルコトヲ辨スシテ。外宮ハ奈具ノ社ノ天女ト同體ノ神ニテ在ナド云族モアリ。奈具ノ社ノ天女ハ。外宮ノ酒殿ニテマシマスナリ。件ノ子細ハ其祠官ナラズシテ。アマネク人ノシルベキコトナラネド。世ノ人ニ宮ヲ偏頗シテ思カタモアレバシルスナリ。天照トハ二宮ノ通稱。太神ハ大廟ノ本号トモ。古記ニ侍ハ。彌偏頗スベカラザル事歟。祠官サヘモソノ故ワキマヘズ。往々ニソノ神ノ高卑ヲアラソフ。二所尊神ノ御心ニカナヒガタキ事ナラン。陰陽晝夜兩眼兩手イヅレヲ廢シテ可ナランヤ。二宮一光ノ理ヨク辨ベシ。カタソギノ

ノ事漢祕ノソノ一ナレドモ。祠官タガヒニ其神ノ徳ヲアラソヒ。世ノ人モ亦マドフ事ナレバ。略ソノ子細ヲ云ベシ。尊神御出生ノ次第ヲイヘバ。外宮ハ先ニシテ國常立ノ尊。内宮ハ後ニシテ天照太神ナリ。又御鎮座ヲイヘバ。内宮ハ先ニシテ。外宮ハ内宮ノ御告ニヨリ後ニ御鎮座ナリ。對スル時ハ内宮ヲ日神ト号シ。外宮ヲ月神ト号ス。月神ト申シタテマツルトテ月讀ノ尊ノ御事ニテハナシ。國常立ノ尊ハ一水ノ徳ノ神ニテ在故ニ。内宮火徳ノ日神ニ對シテ。外宮水徳ノ月神ト習事ナリ。月讀尊ハ内宮ニモ。外宮ニモ別宮ニ在バ。惑ベキ事ナラズ。猶フカキ習アリ。或ハ皇孫尊相殿ニマシマス事ヲ知デ。外宮ハ皇孫尊ニテマシマスト云人アリ。或ハ丹州奈具ノ社ノ神ヲ御饌都ノ神トイヘバ。外宮御氣津ノ神ノ尊

号ト相通ズルユヘニ。水ハ御氣津ノ略語ナルコトヲ辨スシテ。外宮ハ奈具ノ社ノ天女ト同體ノ神ニテ在ナド云族モアリ。奈具ノ社ノ天女ハ。外宮ノ酒殿ニテマシマスナリ。件ノ子細ハ其祠官ナラズシテ。アマネク人ノシルベキコトナラネド。世ノ人ニ宮ヲ偏頗シテ思カタモアレバシルスナリ。天照トハ二宮ノ通稱。太神ハ大廟ノ本号トモ。古記ニ侍ハ。彌偏頗スベカラザル事歟。祠官サヘモソノ故ワキマヘズ。往々ニソノ神ノ高卑ヲアラソフ。二所尊神ノ御心ニカナヒガタキ事ナラン。陰陽晝夜兩眼兩手イヅレヲ廢シテ可ナランヤ。二宮一光ノ理ヨク辨ベシ。カタソギノ

千木ハ内外ニカハレトモ内宮ハウチソギ外宮ハソトソギナリチカヒハヲナジ。伊勢ノ神垣ト禰宜ニ從ニ ③06オ

三位朝棟ノヨメルニテモシルベキ理ナリ。吾祭奉奉レ仕之時ハ先可レ奉レ祭止由氣太神ト内宮ノ御神託ニヨリ御鎮座ノ外宮ノ諸神事參詣ノ次第ノ先ナルヲミテハ。外宮ハ國常立ノ尊ニテ。諸神ノ元ナレバ内宮ヨリ

スギテ尊神ニテマシマスト思族モアリ。又内宮ハ天照太神ニテ國土ノ主始ノ尊神。ソノ上内宮ノ御神託ニヨリ。外宮モ御鎮座ナレバ。内宮ノ尊コトハ外宮ノ神ノ及ベキコトナラズト云タグヒモアリ。末代ノ凡夫ノ

習トハイヒナガラ。尊神ニ高卑ヲツケテ。コレヲ上トシカレヲ下トスルコト言語道斷ナリト云下下争來由ヲノコレヲ聖ス。正統紀ニ外宮ヲ御饌ノ神ト

申事ハ。古ハコノ宮ニテ御饌ヲト、ノヘテ内宮ヘモ毎日ニヨクリタテマツリシヲ。 ③06ウ

神龜年中ヨリ四十五代聖武帝ノ年号外宮ニ御饌殿ヲタテ、内宮ノヲモ一所ニタテマツルトナン。カヤウノコトニヨリテ御饌ノ神ト申ス説アレド御食ト御氣トノ

兩義アリ。陰陽元初ノ御氣ナレバ天ノ狹霧國ノ狹霧ト申ス御名モアレバ猶先ノ説ヲ正トスベシトカ。按ズルニ先ノ説ト云ハコノ上ノ文ニ天照太神丹波ノ與謝ニヲハセシ時

ヘリソノ事ハスデニ神社考ヲヒイテ前ノ段ニシルセバコ、ニ畧シテノセザルナリ又御饌ノ神ト云モコレ又丹波ノ奈具ノ社ノ神ナリコノ神ノ因縁ハ丹後風土記ニノセタリ昔天女八人アマクダリテ與謝ノ郡ノ比治山

ノ頂ニ眞井ニ水アミケルヲ和奈佐ト云老夫婦アリテ一人ノ羽衣ヲカクシタルニ七人ハヲドロキハチテ天ニ上一人ハ上トアタハズツイニ夫婦ノモ約シテ娘トナシヌソレヨリ藥酒ナドヨクツクリイテ穀米成

熟シテ大富人トナル天女去竹野ニイタ夫里人神ニ祝乃奈具ノ社ノ神ニ延喜式ニツクコノ神ノコトヨクス丹後ノ國竹野郡奈具ノ神社ハ豊字氣比女ノ神ナリコノ神伊勢ノ末社ニウツシ祭ヲ酒殿ノ神ト号ヨク

酒ヲ饌スルヲ以ノユヘナリ大膳職ニウツシ祭ヲ御食津ノ神ト号ヨク種ヲモツテノユヘナリトイヘリコノ神豊字氣ノ名アリ又同丹波余謝郡ニテシカモ又御食津ノ事ナド似タルコト多クレバ紛ヲハスナルヘシ又神書鈔ニ ③07オ

天地精明ノ本源ナリ。無相無爲ノ太祖タリ。ユヘニ佛見法見ヲ起サズ。無相ノ鏡ヲモツテ假ニ妙體ヲ表ズトイヘリ

三 天照太神宮靈驗ノ事 夫天照太神ノ靈驗ノ揭焉コト諸書街談ニ滿ヌレバ。今更記スルニヨバズ。先ハ天慶三年下總ノ國相馬ノ將門ヲ誅罰シ玉ヒシ時。參議從三位

大伴ノ宿禰保平ヲ勅使トシテ種種ノ神寶ヲ進上テ。祈願シ玉ヒケルニ。二月十三日ノ夜ノ事ナリケルニ。太神宮ノ正殿ノ内二人ノ名字ヲ召立ラレ。弓箭甲冑等ヲ下サル、聲

シケルヲ。宿直ノ番ノ内人物忌等現ニ聞ヲソレ畏ケル處ニ。又二見ノ浦人男女數十人幻ニ見ケルハ。甲冑ヲ著シタル人アマタ白馬ニ乗テ海上

ヲ東ヘ指テ行アイダ。浦人等ノ云。是ハ何ナル人ナレバ海上ヲ陸地ノゴトクニ馬ニテハ行玉フゾト問バ。太神宮ヨリ平ノ將門ヲ誅センタメニツカハ

サル、勢ナリト云テ。タチマチ消テ見エズ。浦人ヲドロキ怪語傳ケルガ。果シテ將門誅ニ伏シケリ。コレニヨツテ伊勢ノ國負辨ノ郡ナド御寄附

アツテ。益尊宗シ玉ヘリ。抑將門トイッハ。惡逆無道ニシテ ③08オ 其伯父常陸ノ大掾國香ヲ殺。舍弟下總ノ介良兼ト不和ニシテ度々合戦ニ

及トイヘトモ。弟穩便ヲ存ジテ戰ヲ好ザレバ。彌猛威ヲ振近隣ヲ燒亡テ。ツイニ關八州ヲ押領シ。自平親王ト稱ジ。左右ノ大臣ヨリ始參

議百官六辨八史ヲ置欠トコロハ唯曆博士ノミナリキ。關東ヨリノ早馬注進櫛ノ齒ヲ引ガゴトクニシテ。都鄙ノ騷動限ナシ。時ノ帝朱雀院驚

セ玉ヒツ、公卿僉議アツテ。貞盛秀郷及藤原ノ忠文等ヲツカハサル。然ニ將門田原藤太秀郷ガ謀ニ陥テ。既ニ誅セラレシト聞シカバ。總大將忠

文駿河ノ國清見ガ關ヨリ空引返ケリ。カノ將門トイッハ直人ニアラズ。

桓武天皇ノ御孫高望ノ王ノ子ニ鎮守府ノ將軍長

③08ウ

持ノ子ナリケリ。勢スデニ關八州ヲ吞デ。猛將勇士多カリシカバ。若シニシキ加玉フニアラズンバ。カク容易ク誅戮セラレンヤ。ソノ外徒黨ノ大將。武藏ノ權ノ守興世。下野守將賴。上野ノ守多治比ノ常明等。或ハ討或ハ亡ガゴトクニナリテ。天下太平ニ屬シテ萬民處ヲ安ジヌ。コノ靈驗ハ具ニ太神宮神異記ニ載タリ。又續神皇正統記ニ後花園院ノ御宇。嘉吉三年九月廿三日ノ夜亂賊俄ニ禁裏ニ入テ。御門ヲ過タテマツラントセシニ。ソノモノ忽足シドロニナツテ自コロビフシケルヒマニ。天子避隱サセ玉ヒシカバ。玉體ハ恙ナカリケリ。其夜太神宮ニテハ櫪飼ノ御馬厩ヲヤブリイデ、カケマハリケルガ。鞍ヲケル跡アツテ汗カキツ、元ノ御

③09オ

厩ニ歸入ケリ。コノ事イソギ奏聞セシニ。ソノ夜都ニハ遽ナル騷動アツテ。天子危ヲノガレサセ玉フコト神馬ノ怪異ト符節ヲ合タルガゴトシ。凶賊本意ヲ達セザレバ直ニ山門ニノボリ南朝ノ皇子萬壽寺ノ僧某ヲス、メテ殘黨ヲ集重テ亂ヲコソントシテツイニ誅セラル事ハ國史ニミエタリ。三代ニ及テ。皇威モステニ衰サセ玉ヘドモ。神明ナヲ擁護ノ眸ヲ廻サセ玉フ。是シカシナガラ惡逆無道ヲ罰シテ。不忠不義ヲ誡玉フナリ。吁人天照臨ノ正神國家鎮護ノ宗廟。タレカ嚴肅屏營ノ誠ヲ抽テザランヤ

#### 四 聖武皇帝大佛建立ヲ太神ニ窺玉フ事

大常國史ニ云。聖武皇帝願ヲ發テ。東大寺十六丈ノ毗盧遮那大金像ヲ鑄タテマツラントヲボス。按ズルニ法身ハ無相ナリ

③09ウ

ヨルガユヘニ相ヲ顯コトヲ妨ズ又廣大無邊ニシテ身量アルコトナシトイヘトモシカレトモ化身ノ釋迦一丈六尺ノ滿數ヲトツテ且究極ノ身ニナツラフルナリ或人ノ云是報身盧遮那ナリ毗盧遮那ニハアラズト云若差別ヨリシテミルトキハ毘盧遮那ハ是法身ニシテ盧遮那ハ即報身ナリ若華嚴如來名号品ニヨツテコレヲイヘバ共ニ是釋迦如來ノ異名ナリ故ニ華嚴ノ中舊譯ニハ盧遮那トシ新譯ニハ往々ニ毘盧遮那トス天台ヨリ新譯ヲ難ズルハ法報ヲ分ニ由ガユヘナリコ、ニ毘盧遮那ト云ハ唯、隔、歷、ノ法身ヲアグルモニアラズ三身相即ノ法身ノ名ヲ稱ズ故ニ盧遮那ト云モ可ナリ釋迦ト云モ可ナリ皇太后神夢中ニ帝ニ告玉フモ已ニ毘

盧遮那ト玉ヒ聖武皇帝ノ幹縁ノ疏ニモ見時ニ思惟シ玉ハク。我國家歷代神ニツカフ。盧遮那佛ト書玉フ後人輕議スベカラズ。今佛殿ヲイトナムコト神ノ心ニタガヒナンヤト。因天平十三年ニ行基法師ニ勅シテ。佛舍利一粒ヲ授テコレヲ皇太神ニ獻ゼシム。行基乃勢州ニイタリ内宮ノ南門大杉ノ下ニイテ。廬ヲムスビ一七日ヲ期持念シテ且獻慮ノ旨ヲ宣ラレケルニ。第七日ニアタリケル夜。神殿自開高ナル御聲ニ唱テ曰。實相眞如ノ

③10オ

日輪ハ。生死ノ長夜ヲ照卻シ。本有常住ノ月輪ハ。煩惱ノ迷雲ヲ燦破ス。我今遭ガタキ大願ニ逢。渡ニ船ヲ得タルガゴトシ。又得ガタキ毒珠ヲ受。暗ニ炬ヲ得タルガゴトシ。師其舍利ヲ持シテ飯高ノ郷ニ藏埋デ。以邦家ニ賴セヨト。行基神託ヲ感喜シテ乃舍利ヲ捧テ飯高郷ニ納。都ニ歸ツツサニ奏聞シ玉ヒシカバ。帝獻感淺カラズ。カクテ又思召ル、ハ。僧ヲ以宗廟ノ勅使トスルノミニテハ。朝廷ノ儀式ニアラズト。コ、ニイテ重テ右僕射橋ノ諸兄公ヲツカハサル。公勅使ヲツトメテ歸參ケル夜。帝夢ミ玉フハ。皇太神宮告玉ハク。日輪ハ是毘盧遮那ナリ。帝コノ意ヲ得テ營興ヲナセト言已。日輪ノ相ヲ現ジ玉フニ。ソノ光赫突タリ。夢

③10ウ

サメテ帝益感激在。ツイニ御志ヲ決シテコレヲ建立シ玉ヘリ。恭コノ事ヲ思ニ。太神翅佛ニ歸依シ玉ヘルノミニアラズ。自ソノ本地ヲアラハシ玉フコト。寔ニ信敬スベキ事トモナリ。然ニ近世唯一ヲ建神道者ノ撰述セル書ニイヘラク。聖武皇帝ノ御夢ニ。太神宮ハ本地大日ト御覽アリシヨリゾ兩部習合ハ始ケリ。聖武帝ノ御夢ト行基ノ聞レシ神勅ノミニテ。諸兄公ニハ何ノ神勅モ夢モナシトアヤシ。思慮スベキコトナリ。聖武ハ佛法歸依ノ天皇ニテマシマセバ。思寐ノ御夢アルベシ。行基ノキカレシ神勅ハイブカシナド書。此一分ノ私ヲモツテ浪ニ天下ノ

公ヲ害ノ論ナリ。イカントナレバ。帝思寐ノ夢モアルベシトイヘル  
コト。總ジテ思寐ノ夢アルマジト云  
③11ノ15オ

ニハアラズ。然トモ思寐ノ夢ト云ハ。平生見聞ニ熟シ。心想ニ積ガ故ニ。  
夢中或ハ偶然トシテ現。コレ乃周禮ニ六夢ヲ敘中ノ思夢。又典善  
見律等ニ説思想夢是ナリ。聖武帝最佛法ニ歸依シ玉フトイヘトモ。コ  
ノ時密教イマダ本朝ニワタラズ。其毘盧遮那ト云ハ。唯一往顯教三身相

無相等ノ説ヲ聞ノミ。密教法身ノ淺旨ニ至ハ。イマダ見聞ニダモ觸玉ハ  
ズ。所謂南人ハ駝ヲ夢ミズ。北人ハ舟ヲ夢ミズ。ナンノ思寐ノ御夢カア  
ラン。然ニ皇太后曰。日輪ハ是毘盧遮那也ノ一句。天ヲ蓋地ヲ蓋テ古  
ニ亘今ニ亘。顯ニ似テ密ニ入。何ニ況端端の日輪ノ相ヲ現ズルヤ。眞言

教ニ達スル人ハ黙シテ瑜伽ノ密旨妙ノ境界ナリト  
③11ノ15ウ

信ズベシ。虎關禪師曾コノ事ヲアゲテ贊シテ云。異矣哉神ノ言タルヤ  
學タルカ學ザルカ。毘盧遮那經ノ疏ニ曰。毘盧遮那此ニ曰ト云。蓋天地

ノ間日光ミナアマネシ。我毗盧世尊大覺圓照至至ト云トコロナシ。  
假ニ世ノ相ヲ借日ヲ取名ヲ寓ス。ユヘニ摩訶毘盧遮那佛翻ジテ大日如來

ト名ヅク。皇太神宮何ヨリ得テ。シカモ我聖武帝ニ聞シテシカモ微旨ヲ  
啓ルヤ。烏乎不測ノ。ハカザルモノカト云。又卜部ノ兼延ガ名法要集

ノ中ニコノ事ヲ記。御夢中ノ事ナヲ更詳ナリ。按ズルニカノ記ニハ諸兄公歸參ノ後  
テ金光ト云々。而云。コノ後七十年ヲ經テ眞言密教初テ本朝ニ流。マ  
サニ知レシ去天平ニ示現シ玉フ。金胎兩部ノ大

日盧遮那佛ハ。一切諸佛菩薩ノ總體ナリト。舍那ノ生身ハ吾國ノ本主日月  
兩神ノ尊形。スデニ明鏡ナルモノカト云々。佛家神門古來ノ賢哲コレヲ

信ズルコトスデニカクノゴトシ。後學ナンゾ卒爾ニ無根ノ説ヲノベテ。神  
皇ヲ誣トスルヤ。若夫役ノ小角越知ノ泰澄ノ分ニ密呪ヲ感得スル例ニ

③16オ

準テ。天皇モ亦神言及祕密身ヲ感見シ玉フトイハハ。倍奇ナリトイ  
ヒツベシ。按ズルニ大安寺ノ道慈入唐セシ時求聞持ノ法ヲ歸朝シテ善議ニ傳善議コレヲ勤操ニ

列ニ云人アレド正コレハ師傳又ソレ行基菩薩ハ。ソノ生シトキ奇異ニシテ幼稚  
ノ時益奇ナリ。其死魚ヲ吐活魚トシ自身及智光ノ前生ヲ知按ズルニコ  
ノ時益奇ナリ。其死魚ヲ吐活魚トシ自身及智光ノ前生ヲ知按ズルニコ  
ノ時益奇ナリ。其死魚ヲ吐活魚トシ自身及智光ノ前生ヲ知按ズルニコ

シテ。天下其恩澤ヲ受。ツイニ帝及皇太后皇后等ノ菩薩戒ノ師トナリ  
玉ヒ。當時スデニ大菩薩ノ号ヲ賜。十手ノ指肯トコロ。アニコレ容易

ナランヤ。ナンソレゾ僞ヲカマヘテ。神ヲ蔑ニシ帝ヲ欺。若ソレ行  
基僞奏スルナラバ。ナンゾ太神ノ祟ナク。卻吉野ノ藏王比良明神感現シ

テ。黃金ノ出處ヲ示。宇佐八幡ハタタコレニ出處ヲ示ノミナラズ。大殿  
成就ノ後。聖武帝ト共ニ佛殿ニ詣テ大像ヲ拜シ玉ハンヤ。コノ事載テ舊

史ニアリ。コレモマタアニ一々僞トセンカ。諸神ノ隨喜シ助成シ玉フ  
ヲ以我益信ズ。前行基ニ告ノ神言ハ皇太后ノ御心ヨリイデ。基公ノス

コシモ僞ザルコトヲ。因ニ記。往年南都龍松院主ニ參會セシ  
時語ケルハ我マノアタリ大佛ノ雨ニウタレ風ニ吹レテ。漸傾頹玉ハ

ントスルヲ見ルニ忍ズ。コノユヘニ大殿建立ノ願ヲ發トス。又思惟スラ  
ク。コレ先官廳ノ許容ヲ稟テ遍國家ノ衆力ニヨルベシ是我分上ニヨイ

テハ大願ナリ。事多年久カルベシ。佛神ノ擁護ニアラズンバ。ソノ問  
爭力障難ヲ免ント。コ、ニヨイテ鎮主八幡大菩薩ニ詣テ。竊ニコノ事

ヲ祈。數日ノ後或夜ノ夢ニ八幡社ニ詣又須臾アツテ社壇ノ中ヨリ大ナル  
龍ノ首指出タリ。ソノ威靈眼光ノ輝コトイハンカタナシ。其身ノ長次

第二伸テカノ首ヲ我頭ノ上ニガハト持サレタレバ。ソノ驚ヲソロシサ心  
消入ヤウニナリテユメサメヌ。遍身大汗ナガレ戰慄スルコト止ス。カクテ

③17ウ

夜モ明ケレバ イソギ日ゴロ言カハセシ 祠官ノアリケルヲ。呼迎テ。コノ夢ヲ語ケレバ。祠官大ニ讚嘆シ良アツテ。切々コレハ吉夢ナリ。所謂神ハ正直ノ頭ニ宿ト云ノ本文ノ心ナルベシ。師コノタビノ大願 正直心ヨリ發タレバ。師ノ體ニ傍テ擁護シ玉ハントノ御心ナラン。カヘスガヘス後々マデコノ心ヲ忘レ玉フベカラズト云ケルニゾ。彌心肝ニソミテアリガタク侍テ。遂ニ堅固ニコノ願ヲ發キ。爾ヨリコノカタ佛神ノ御加護ト思アタル事トモスクナカラズト。コレ發願 四五年ノ後ノ直説ナリ。ソレヨリ段々高貴ノ助祐ヲ得。衆緣事 調テ。巍然タル大殿ツイニ成就セシコト。コレ 併 八幡大菩薩ノ擁護力ニヨレバナリ。ソノカミ皇太神ノ基ヲ開玉ヒテ

③18オ

ヨリコノカタ。スベテ千年ニ向トス。ソノ間不慮ノ災アリシ処ニ。俊乘坊伊勢ハ詣テ造營ノ祈願ヲ致トコロニ。風ノ宮ノ社ヨリ二顆ノ寶珠ヲ賜。當寺審藏ニ納ト云。今又八幡ノ擁護ニ因。雕甍雲ヲ拂佛日 重明ナリ。アニキカズヤ。皇太神ノ託宣ニ云 謀計ハ眼前ノ利潤タリトイヘトモ必神明ノ罰ニアタリ正直ハ一旦ノ依怙ニアラズトイヘトモツイニ日月ノ憐ヲ蒙ト。マサニ知ベシ行基神罰ヲ受ザレバ 僞ニアラズ。二僧相ツイデ二宮ノ憐ヲ蒙ハ便 是正直ナリト。夫神ノ佛法ヲ擁護スルコト古今ノ傳トコロ勝算ヘカラズ。然ニ是兩部習合ヲ破セントスルノ私ヨリ。基公ヲ僞トシ。聖武帝ヲ思寐ノ夢トス。ナンゾ我慢 隔歴ノ凡情ヲモツテ。公大與善ノ正神ヲ議セン。是神ヲ揚ントシテ卻神ヲ編スルナリ。又太神 橋ノ諸兄公ニ告玉ハザルコトハ蓋諸兄ハ唯朝廷ノ儀式ヲ 調ノ奉幣使ノミ。可否ヲ定ノ使ニアラズ。行基ハ七日齋庭ニ居ツ、按ズルニ神書ニ云内清淨ノ道場コレ齋庭トイヒ又ハ内場 欽 上ノ旨ヲ演テコレヲ問タテマツルニ神漸一七日ニ滿テ夢ニコレヲ告玉フ。基公ハ聖僧ナリ。

③20オ

然トモ猶敬慎シ玉ヘルコトカクノゴトク。太神亦輕シク告玉ハズ。是神宮ノ穆々タルユヘンナリ。然ニ諸兄公才德優長ナリトイヘトモ本コレ凡俗ナリ。且再問使ニアラザレバ。七日齋戒シテコレヲ問タテマツラル、ニヨバズ。太神已ニ行基ニ決答シ玉ヒキ。宜ナルカナフタ、ヒ

③19オ

橋公ニ告玉ハザルコトヤ。然トモ太神橋公ノ使ヲ欲且帝ノ心ヲ決センタメニ。猶又帝ノ夢ニ入玉ヘリ太神ノ帝ニ應ズルコト初アリ終アリ。何橋公ニ告ザルヲ訝トセン。更ニ例ヲ引コレヲ論ゼバ。孝謙帝道鏡ヲ帝位ニ即ト覺テ。和氣清麻呂ヲシテ宇佐八幡ニ問シム。神乃 形ヲ現ジテコレニ告ニ。其宜カラザルユヘヲ演テ且曰ク。汝 歸バアリノマ、ニコノ事ヲ奏セヨ。道鏡ヲ恐ルコトナカレ。我汝ヲ擁護セント云々。清麻呂 歸直路ニコレヲ奏ス。コノ故ニ道鏡位ニ即コトアタハズ。忽道鏡ガ怒ニフレ。乃 配流セラレテ且命ヲ失ントスルニ。神ノ護念ニヨツテ其難ヲノガレ。後光仁帝ノ時ニ及赦ニ遇歸京シテ。ツイニ從三位民部卿ニ至。剩光

③19ウ

仁帝清麻呂ニ命シテ一寺ヲ建立セシム。コレ初神託アリシニ由ナリコノユヘニ神願寺ト号スト云天長二年改テ神護國祚寺ト是レヲ以是ヲミルニ。凡世ノ爲人ノ爲ニ宜カラザレバ。神叮嚀ニソノ所以ヲ告テ且コレニ加ニ恐ルコトナウシテ正直ニ奏セヨ。我コレヲ護トマデノ玉ヘリ。ナンソレゾ其諄々タルコトカクノゴトクナルヤ。是國家ヲ思邪正ヲ辨ズルユヘンナリ。蓋 惟ニ皇太神モマタカクノゴトケン。佛法モシ邪ニシテ國家ニ益ナクンバ。神アニ行基ノ僞ヲ恣ニシテ黙シテ諸兄ニ告玉ハザランヤ。若クハ太神知メサズトイハハ。靈通八幡ヨリ劣トセンカ。又邪ナルヲ知玉ヘトモ故ニ曉玉ハズトイハハ。即コレ邪ニ與シ玉フトセンカ。蓋

③20オ

アニ八幡神ニ劣玉ハンヤ。コ、ヲ以倍信ズ。黙シテ橋公ニ對玉ハザルコトハ。前ニスデニ行基ニ決答シ。次ニ橋公奉聘使ニシテ再問使ニアラズ。像殿建立是正業ニシテ邪事ニアラズ。コノユヘニ默受スルナラン。然ナラ帝ヲ曉ニ言ヲ以シ身ヲ以ス。コレアニ靈通辨明諄諄タルニ非ヤ。吁宗廟ノ二神語默黜陟異ナリトイヘトモ。ソノ國家ヲ正シ人民ヲ憐玉フコトハ同一揆ナリ。是ヲモ疑ベクンハ。將ナニヲカ信ゼンヤ。余素神道ヲ重且皇太神宮ヲ信敬ス。然ニ其宗トスル人動バ私議ヲ出テ公論ヲ廢ス。恐ハソノ偏執ニ墮我慢ヲ長ジ。卻正大公直ノ神慮ニ戻コトヲ。是ヲ以繁雜ヲ顧ミズ贅複シテコレヲ辨ズ。ナヲ其習合ノ配當本跡ノ淡義顯

③20ウ

⑤ 神道ト儒教ト習合ノ辨

或人ノ云コノゴロ儒者ノ神道ヲ學モノ、云。夫神道ハ我儒ト習合スベキモノ歟。イカントナレバ。二所大神宮ノ太神主飛鳥トイヒシ人ノ筆記ニ。天ノ御中主ノ尊ヲ釋スルニ云虚而有靈一而無形ト云々。皇實錄等ニモノセタリ。夫虚而靈アリト云ハ。儒ニイハユル無極而大極ナリト云ニ似タリ。一而無形トハ乃コレ大極ニシテ無極ナリト云ニ類ス。度會ノ延佳コノ語ヲ引云。朱子明德ヲ註セルニモ。虚靈不昧ニシテ衆理ヲ具テ萬事ニ應ズト侍バ。

③21オ

ノ尊天照太神ニ同カランカ。其上ハ神明ノ舍トイヘバ本ヨリ人々ノ心中ニ神ハ宿在トモ。クラマシタル心ハ舍ノ戸ヲトヂタルガゴトク。又鏡ニサビウキ塵積タルニ同イソギ神明ノ舍ノ戸ヲヒラキ。鏡ノサビ塵ヲ去ベシト云ノルイ是ナリ。又或說ニ云夫國常立ノ尊ト云ハ所謂大極ト云ニ似タリ。コノ尊ハ別シテ云時ハ水徳ノ神ナレトモ。總ジテハ五行ノ徳ヲ全具シ玉フト。イヘバ便コレ一大極ノ總體ヲ云ニ似タリ。次ニ國狹槌ノ尊ハ水徳ノ神ト云ハ。即河

③21ウ

圖ノ數ノ天一水ヲ生ズト云ニ似。第二ノ豐斟淳ノ尊ハ火徳ノ神ナレバ地ニ火ヲ生ズト云ニ似。第三ノ泥土煮沙土煮ノ兩尊ハ木徳ノ神ナレバ。天三木ヲ生ズト云ニ似。第四大戸之道大苦邊ノ尊ハ金徳ノ神ナレバ。地四金ヲ生ズト云ニ似。面足ノ尊ト惶根ノ尊ハ土徳ノ神ナレハ天五土ヲ生ジ地十コレヲ成ト云カゴトシ。蓋五行全備陰陽勢用アリ。故ニ伊弉諾伊弉册陰陽ノ二神相配シテ。神形國土ヲ生ズト云ハ。是五行全シテ陰陽力用ヲ施ユヘンナルカ。又初國常立ヨリ。國狹槌豐斟淳ノ尊ノ三神ハ。奇數ニシテ一ツ、出生シ玉ヘバ。純陽ニシテ三コノ乾ノ卦ニ似タリ。泥土煮沙土煮ノ二神ヨリ。面足惶根マ

③22オ

デノ三神ハ耦數ニシテ。二ツ、並出。純陰ニシテ三坤ノ卦ニ似タリ。三陽三陰全備。交泰シテ以萬物ヲ生ズ。是伊弉諾伊弉册ノ徳用ナリトイッツベキ歟。然バスナハチ大極動而陽ヲ生ジ。靜ニシテ而陰ヲ生ジ陰陽即五行ヲ生ジ。五行流變シテ萬物ヲ生ズト云トナニヲ以カコトナラシヤ。程子ノ云。天地ハ只是位ヲ設ノミ。易ソノ中ニ行ト云ハ神也ト。又云氣ノ外ニ神ナク神ノ外ニ氣ナシトイヘリ。コレ等ノ言ヲ參考バ。天神七代一ノ易道ナラクノミ。地神例シテ知ベシ。ナドイヘルハイカン。答三台便覽ニ云。明ノ村召吉纂。河圖洛書ハ數ナリ。イマダ天地アラザルニ而コ

ノ數アリ經ニ云コノ經ハ郭璞カ心經ヲ指ナラン 天地ハコノ數ノ中ニ生ズルナリ ③22ウ  
リ。シカモコノ數ハ天地ノ大ヲ該。是ニ知。凡ソノ中ニ位スルモノハ肯コ  
ノ數ヲノガレズ。造化ノ端ヲ窮彝倫ノ序ヲ究テ聖賢相承モ。イマダカツ  
テコノ數ヲハナレズコノ故ニ伏羲ハコレヲモツテ八卦ヲ畫シ。夏王ハコレ  
ヲ得テ九疇ヲ布ト云々。蓋以ニ神イマダ形ヲ現ゼザル時ハ。自易  
數ノ中ニ寓ス。程子イハスヤ。中庸ニ説トコロノ誠ハ便是神ナリト。又  
所謂神方ナキガ故ニ。易モ體ナシト云思テ知ベシ。既ニ形ヲ現ズルニ及  
モ亦スベカラク易數ニ乗ジテ出ベシ何陰陽五行ヲハナレン。故ニト部ノ  
兼延天ノ五行ヲモツテ五大神ニ配ス。及國狹槌尊ヨリ面足ノ尊ニイタル  
前ニ列トコ又次ニ地ノ五行及人ノ五行ト云ヲ立並ニ神名ヲ配シ列。タトヘバ  
地ノ

③23オ

五行ノ始木祖句々迺馳ノ命ヲ先トシ。水祖罔象女ノ命ヲ終トシ。又人ノ  
五行ノ五大神ハ。天ノ八降魂ノ命ヲ地大輪ノ神トシ。乃至天八十萬日  
魂ノ命ヲ空大輪神トスルガゴトキ。コレ粗儒ノ云トコロニ等ニ似タリ。  
又延佳ガ云。我國ノムカシヨリ語傳タルコトノ自易ニカナフユヘニ。  
神書ヲ撰人ノ易ト附會シタル詞アリ。日本ノ神聖ノ跡。唐ノ聖人ノ書ニ  
符ヲ合タルコトハイカト思ベケレド。天地自然ノ道ノカノ國コノ國チガ  
ヒナキ。コレゾ神道ナルベキ。カク神道儒道ソノ旨一ナレバ。ソノ道ニヨ  
リテ修スル教ノカハルトコロハアルマジケレドモ。異國ト我國ト制度文爲  
ハチガヒメアリト云々。夫延佳ハ佛道ニ習合スルコトヲ嫌。又儒ト習合ス  
ルニハ

③23ウ

又程氏ノ天地萬物鬼神本無二只是一箇ノ誠ノミト 中庸圖解ニ云鬼神トハコレ箇ノ  
誠一切ニ周遍シテ。天地萬物ト一ニ。ソノ體性ヲ同スル邊ニ約シテ。陰  
陽五行即神ナリト説モ可ナルベシ。但毛詩ニ神ノ格コト度ベカラズ知  
射ベケンヤト云。又程子ノ冬寒夏暑ハ陰陽ナリ。運動變化スルユエン  
ノモノハ神ナリト云ノルイハ。陰陽五行ノ外別ニ往來主宰スルモノアルニ  
似タリ。故ニ江東ノ儒者ハ初ノ説ニヨツテ。風雨ヲ以

③24オ

直ニ鬼神トシ。劉屏山等ハ鬼神ハ自鬼神ナリ天ノ寒暑氣ノ屈伸。鬼神ナ  
ンゾ預トイヘリ。本トコレ神ハ萬物ニ妙ニシテ。ソノ境界不可思議ニシ  
テ測ガタケレバ。或ハ即スト説離スト説儒ノ説モ區ニシテ一定ナラザル  
ユヘンナリ。本朝神道ノゴトキハ。ヨク其正傳ヲ受ベシ。又ソレ儒釋神  
ノ論ニ至ハ。モトヨリ一ニアラズ異ニアラズイカントナレバ。廣狹淺深  
顯密本末ノ差ナキニ非トイヘトモ。共ニ一心ヲ主トスレバナリ。神祇道ノ  
管領ト稱スルナルト部ノ兼直ガ神道大意ニ儒佛ノ二教トハ。萬法ノ流ヨ  
リ一心ノ源ヲ分。釋迦孔丘共ニ性命ヲ天地ニ受。德行ヲ夙夜ニ施コレ  
吾神明ノ托スルニ非ヤ。佛ハスナハチ神ノ性人ハ則神ノ主ナリ。梵漢ノ兩  
聖心地ヲ和

③24ウ

光ニヒラキ。天地ノ一神通化ヲ塵埃ニ同ス。大道一元ノ元天心一貫ノ貫。  
コレ我神道ニアラズヤト云々。是強三教ヲ分。隔ザルナリ。然トモ又混  
雜シテモ説ベカラズ。各宗トスルトコロアリ古人各公論アレバ。私ヲハ  
ナレ心ヲ虛ニシ。熟シテコレヲ閱ヘシ

### 因 三種ノ神器智仁勇ノ三徳ニ配スル事

夫本朝ノ神明ハ。正大公直靈通無礙ニシテ。唯惡ヲ遠ザケ善ニ與シ玉フ  
ガユヘニ。佛法ニモ習合スベク。儒教ニモ習合スベシ。陽復記ニ。神璽

寶劍内侍所ノ三種ノ神器ハ。智仁勇ノ三徳ヲ表シタルト。フルキ傳ノア  
ルニゾ。孔子ノ道ハ我國ノ神道ニ。ヒトシキ道ト。ヲモハル、ト云ヘリ又  
親房卿ノ云鏡ハ一物ヲ。タクハヘズ③25オ

ノ心ナクシテ。萬象ヲ照ニ。是非善惡ノスガタアラハレズト云コトナシ其  
スガタニシタガヒテ感應スルヲ徳トス。是正直ノ本源ナリ。玉ハ柔和善  
順ヲ徳トス。慈悲ノ本源ナリ。劍ハ剛利決斷ヲ徳トス。智慧ノ本源ナリ。

コノ三徳ヲ翁受ズシテハ天下ノ治コト。コトニカタカルベシ。神勅ハ太  
神瓊々杵ノ尊ヲコノ界へ降玉ヘル時ニ。明ニシテ詞約ニ旨廣。刺神器ニアラハ  
シ玉ヘリト云々神皇正統紀東家 又云三種ノ神器世ニ傳コト日月星ノ天ニアル

ニ同鏡ハ日ノ體ナリ。玉ハ月ノ精ナリ。劍ハ星ノ氣ナリ。フカキ習アル  
ベキニヤトモ書鏡ハ石凝姥ノ命ノ作玉ヘル八咫ノ御鏡。玉ハ八坂瓊ノ曲玉。玉屋命又天明玉  
所謂智仁勇ノ三徳ハ。中庸ノ宗トスルトコロニシテ。弘ハ四書六③25ウ

經ニ具ニ説教トコロ。凡心ヲ正シ身ヲ修國ヲ治達德通行ノ正路ナリ。  
誰カコレヲ仰ザラン。抑佛道ト云モ亦コレヲ擴充コレヲ究竟スルナ  
リ。謂智トハ大小乘及ヒ如來所證ノ法門。乃一切智聞道種智薩一切種智

如ナリ。又大智文殊ヲ上首トシテ智増ノ菩薩ハ智ヲ主トシ。餘行ヲ導  
上達スルナリ。又仁トハ謂仁恕溫和ニシテ苦ヲ拔樂ヲ與。乃衆生緣  
法緣菩薩無緣如ノ慈悲ナリ。觀音等ノ悲増ノ菩薩遍仁慈ヲ衆生ニ及スナリ。

又勇トイツハ勇猛精進ニ煩惱業障ヲ挫。魔軍ヲ退義ヲ見テ爲ニ勇。  
所謂普賢ノ萬行是ナリ。コノ文殊觀音普賢ノ三聖所證ノ法門ヲ集テ。大  
成スルヲ盧遮那佛トス。謂ベシ佛ハコレ大究③26オ

竟智仁勇者ナリト華嚴ノ澄觀三聖圓融觀門ヲ述ス又コノ心ナリ。又浮  
山ノ遠禪師三要アルコトヲ明。曰仁明勇ナリ。仁ト云ハ道德ヲ行教化  
ヲ興上下ヲ安往來ヲ悅シム。明ト云ハ禮義ニ遵安危ヲ識賢愚ヲ察シ是

非ヲ辨ズハ智ヲ以明トス明勇トハ果敢決斷シテ疑ナク姦ヲ必除佞ヲ必去。  
凡叢林ニ住持スル人。三ノ者ソナハレバ叢林興。一ヲ缺トキハ衰。二  
ヲ缺トキハ危三ノモノ一モナキトキハ住持ノ道廢ト云禪門番 コレコノ三  
徳時處境界ノ品ニヨツテ淺深厚薄ノ分アルヘシトイヘトモ。佛神儒乃至  
衆生箇々一心固有ノ具徳ナリ若ヨクコレニ遵修シ行トキハ佛神儒トナ  
リコレニ背恣ナレバ。鳥獸③26ウ

介トナリ。或ハ根ノ國底ノ國へ飄零センコト。アニ理ノ當然ニ非ヤ宜  
慎思ベキユヘンナリ

根ノ國底國ノ事  
或人ノ云根ノ國底國トハ何答神代ノ卷ニ云。其父母。二神素盞鳴尊ニ  
勅玉ハク。汝甚無道以宇宙ニ君臨ベカラズ。固ニ遠根ノ國ニ適ノ玉  
ヒテ遂ニ逐ト云ヘリ。疏ニ云黃泉ノ名草木ノ根菱ニナ地ニ生ズ。故ニ地

下ヲ名テ根ノ國ト云ナラ地獄トイハンガゴトシ延住ガ云根ノ國トハ黃泉ヲサスト云。  
和訓通ズ。子ハ北方陰闇ノ方ナレハ北方ヲサスト。シカレバ兩説トモニ陰闇ヲサシテ云ナラフカキ意ア  
ルベシトイヘリ神代卷ニハ根ノ國トハ蓋コノ處ノ謂ナリト云。又神國決疑論ニハ神書ニモ亦六道四生ヲ  
明ト云中ニ高天原ヲ天趣トシ底根ノ國ト云。又神國決疑論ニハ神書ニモ亦六道四生ヲ  
地獄トシ乃至醜女ハ餓鬼ナリト云云。又底國ハ垂仁天皇ノ御宇新嘗祭③27オ

ノ夜太神倭姫ニ託宣シ玉フニ。根ノ國底國ニ吟トイダスガゴトシ。皇太神又  
倭姫ニ託シテ曰夫逆天則無道逆地則無德而外ニ走本  
居一沒二落根國云ミツベシ根ノ國ノ宜ザルコトヲ。素盞尊主タル  
ハ權化ナラン

### 佛神感應錄卷第三

(白丁) ③裏表紙見返 ③裏表紙

三國 佛神感應錄 四

④表表紙題簽

(白丁) ④表表紙見返

佛神感應錄卷第四目錄

□ 心氣理ノ論 附 應神天皇先儒教ヲ弘玉フ事

□ 唯一神道ノ事 附 神ト人ト次第ニ相ヘダ、リテ。神道儒教ニ移因縁ノ事

附 佛漢土ニワタリ。又百濟國ヨリ日本ヘ一度事。并ニ佛道世ノ

政ニ輔アリト云ル古ノ論ヲ引衷

附 八幡大菩薩。久修佛道ノ本因ヲアラハシ玉フ事

附 寬平法皇御出家ノ御事

附 應神天皇先儒教ヲ弘玉フ事

(白丁) ④01ウ

佛神感應錄卷第四

□ 心氣理ノ論

附 應神天皇先儒教ヲ弘玉フ事

或人ノ云。智仁勇スデニ一心ノ具徳ナリ。然トモ世人愚ニ迷ガユヘニ。

自己ノ寶藏ニコノ害アルコトヲシラズ。甘 窳子トナリ小人トナツテ。

ツイニ根ノ國底ノ國ニ流落スルコト。マコトニ悲ベシ。ユヘニ三教ノ尊

師。コレヲ開示テ。以 自ソノ寶ヲ得セシメントノコト廣經書ニ説ガゴ

トシ。中ニツイテ儒ニイハユル。存 狼省察ノ工夫外ニ求ニアラズ。故ニ

孟子ノ云。學問ノ道他ナシ。ソノ放心ヲ求ノミト。此心ノ中ニツイテ。

人慾ノ私ヲ去テ天理ノ公ヲ存ス。智仁勇 自ソノ中ニアリ。コノユヘ

ニ又性理ノ學ト名ヅク。故人云ルコトアリ。

④02オ

老子神仙ノ道ハ。氣ヲ主トス。老子ノ云。物アツテ。混成シ。天地ニ先

テ生ズト。又云。窈兮。冥兮。其中ニ精アリ。其精甚眞ナリト云ノル

イハミナ氣ヲ指テ云。或ハ氣ヲ狼。氣ヲ服シ。霞ヲ浪シ。風ニ御シ。雲

ニ乘。天ニ上ノ類ハ。是ミナ氣ヲ主トスルニ似タリ。本朝ノ神人蓋コレニ

似タルトコロアル歟。又佛道ハ心ヲ主トシ。儒ハ理ヲ主トスト。コレニヨ

ツテ。大明ノ洪武二十七年ニ。大儒ト稱ズル。三峯子心氣理ノ辨ヲ述テ。

竟ニ儒ヲ以 勝タリトス。果テ然カ。答カノ書ヲミルニ。文巧ニ。ヨク形

容セリ。但心氣トモニ理ナクンバ。アルベカラザルコトヲ云ハ。最可

ナリ。然トモコレニヨツテ。老佛ヲ劣 斥コトハ。不可ナリ。三峯子ハ。

唯心氣理ノ三ノ 勝劣差別

ヲ云ノミニシテ三道理ト指言ザレトモ。其心ヲ底ニ含コト。門弟ノ權近コ

レヲ註シテ。具ニ明セリ。余ツラ々思ニ。神仙ハ氣ヲ主トシ。佛道ハ心ヲ

主トシ。儒ハ理ヲ主トスト云コト。一應ソノ主トスルトコロイハ。左

モアルベシ。然トモミダリニハナレハナレニ説分テ。三道理ノ勝劣ヲ付コ

トハ。道理ニ應ゼズ。イカントナレバ。神仙若理ノナキ氣ナラバ。邪氣ナ

リ。偏氣ナリ。妖氣濁惡ノ氣ナリ。若シカラバ。邪神妄仙ナルベシ。益

修仙服氣ノ法アリ。卽吐 故納 新 ナリ。故氣ヲ吐。新 所謂春ハ朝

霞ヲ浪シ。冬ハ沆瀣ヲ服ス。北方夜半ノ氣ナリ。夏ハ正陽南方日中ノ氣ヲ服シ。秋ハ淪陰。

ミヘ 并ニ是天元地黃ノ清氣ナリ。其行ノゴトキハ陰功三千德行八百ト云ガ

ゴトキ 列仙傳ニ鍾離ガ云。仙ヲ 修スルニハ陰功三千。徳

行八百ヲ積コト 是乃ソノ餐スルトコロ清修スル處 正ニアラズヤシカラズン

バ。アニ長壽自在ニシテ。シカモ天上大清殿ニ住スルコトヲ得ンヤ。又

タゴコレ氣ノミニシテ然ンヤ。本心ニ依テ。理ニ合バナリ。又本朝神道ノ

ゴトキ論ジキハムレバ。眞道ト稱ズ。卜部ノ兼延イヘルコトアリ。神トハ

④03オ



參ジテ。自コノ心ニ徹悟シ公バ。理ト説。性ト説是ト説非ト説クコトハ。所謂様ニ依。菘盧ヲ畫コトヲ知シノミ。ナンノ諍コトカコレアラン。然ニ心ヲ劣ナリトスルハ。佛祖ノ所謂心ニ達セザレバナリ。タトヒ儒ノ心ハ。理氣ヲ兼ト云ノ説ニヨルモ。心トイヘバ。理氣ノ中ニコモレバ心ハコレ大綱ナリトイツ、ベシ。ナンゾ劣ナリトセン又天照太神ノ渡會ノ長官常政ガ神道ヲ極。且聖賢ノ道德ヲ兼タルコトヲ嘉シ玉ヒ伊勢日記八幡大菩薩ノ昔應神天皇タリシ時。始テ儒教ヲ本朝ニ弘玉フ。百濟國ノ大儒阿直岐王仁來朝ス。論語千字文等ヲノセ載テ日本書紀ニアリ今本朝儒宗傳ノコレヲクニソウヘウ是我國宗廟ノ二神。仁義禮智

仁義禮智

④06オ

ノ教ヲ弘。孝悌忠信ノ道ヲ修スルコトヲス、メ玉ヘルナリ又倭姫ノ世紀ニ云垂仁天皇二十六年十一月卯ノ日。新嘗祭ノ夜。天照太神倭姫ニ託シテ曰。各慎懈コトナカレ。當諦ニ聽ベシ。神代ニハ人ノ心皆清淨ニシテ。シカモ正直ナリ。故ニ諸ノ罪垢ナシ。然シテ地神ノ末ヨリ。萬人ソノ心黒シテ而根ノ國底國ニ吟。コレニ依西ノ天ニ真人アリ。皇天ニ代。機ニ隨。恣ヲ説玉フ。カノ詞マサニ來トス。コノ故ニ神明託宣ヲトゞメテ如來ニユヅルト云ヘリ。コレヲ神社考ニノセテ。コノ下ニ云。佛ハ神ニ化導ヲ西方ニユヅリ。カノ佛ノ經文ニハ。利益ヲ明神ニアラハス。故ニ悲華經ニ云。我滅度ノ後。惡世ノ中ニライテ。大明神ト現シテ。ヒロク衆生ヲ度セント。羅山子コレヲノ説ヲノセナガラ。動バ佛法ヲンシルコトハ。ナンゾヤ。思ニコレ後世濫行ノ沙門ヲ警蹙スルカ。然トモ儒ト稱ジテ。儒ニ非モ。延佳ガノアリ。ソノ徒ノコトゴトク善ヲザルヲ以。ナンゾ釈迦孔子ヲ列。抑又朱子ノ癖アルカ。陽復記ニ。雄略帝ノ御宇ニ。倭姫ノ佛法ノ息④06ウヲ屏ヨト禁ジ玉フニマカセテ。今ニ兩太神宮ニ僧尼ヲ忌ト云コトヲ載辨ジテ。コノ垂仁天皇ノ時ノ神託ヲノセズ。コレミナ我好トコロニ蔽ルナリ。又伊勢ノ祠部龍熙近ガ神國決疑論ニハ。守混沌之始。一屏二佛之息。コレ舊基本紀ニイツコノ訓點口傳アリ。誤コレヲミテ佛法ヲ屏ノ義トス。是唯屏息シテ。神ニ向ノ義ナリ。主一無適ノ意耳ト云。大神宮ヘ僧尼ヲ近ヅケザルノ事ハ。積書ニコレヲ

リ。又宇佐八幡ノ清和帝行教法師ノ大藏經及密咒ヲ誦ズルコトヲ感喜シ。夢ニ托シテツイニ男山ニ遷テ彌陀ノ三尊ト現シ釈書ニ詳ナリ。又御靈告ノ頌文ニ。即得往生ノ文ア又我ヲ護國靈驗威力神通大自在王菩薩ト號ストノ玉ヒ。又寛平二年十二月託シテ。菩薩ノ服色道具ヲ得ントノ玉ヘバ。乃勅シテ。環珞香爐。念珠等ヲ獻ジ玉フ。羅山神社考ニモ亦コレヲノス。近ゴロ具原氏八幡宮本紀六卷ヲ述ニ。凡事佛法ニワタルコトヲ④07オ

仁義禮智

④07ウ

ノ神ノ直心ニモ。自ナルベシ。慈悲ノ海ヒロケレバ。天ノ月影ヲウツセリトノ玉フ。清原ノ良業大和論語ニミユ柳男山八幡宮ノ放生會ト申コトハ。元正天皇ノ御宇。狼老四年九月ニ。外賊襲來ノ時八幡宮ノ御神力ニヨリテ。異賊ヲタヤスク退玉フ。④07ウソノ後御神託アリシヨリ始。コノ會久絶タリシヲ。延寶六年ニ再興ケルコソ。神慮仁政ノ時イタレルニヤ。具ニハ男山放生大會ニ説ガゴトシ。八卷アリ又按ズルニ。人皇三十一代。敏達天皇即位七年ニ。天下ニ詔シ。月ゴトニ六日放生セシメ。持統天皇三年秋。八月ニ放生池ヲ置王ヒテヨリコノカタ。天下後世仁心ノ普物ニ及コトアルモノハ。コレヲ隨喜セズト云コトナシ。唐ニアツテハ。顏真卿放生池ノ銘ヲ製シ。宋ニライテハ陸放翁コレガ記ヲ作モツテ讚嘆スルノタグヒ是ナリ。神儒ステニカクノゴトシ。イカニ況釋門ノ徒ヲヤ。ナヲ委ハ雲棲大師ノ。戒殺放生文ニ辨ズルガゴトシ。圓鏡比丘

三 唯一神道ノ事 附 八幡大菩薩佛中ノ本因縁ヲアラハシ玉フ支

④08オ

或人ノ云。唯一神道ノ文ニ云。一者唯一法。而無二法。二者唯受一流。而無二流。三者唯一天上。而有二證明。コノ釈具ニ唯一神道。又大織冠ノ云。吾唯一神道者。天地ヲモツテ書籍トシ。日月ヲ以證明トス。是スナハチ純一無雜ノ密意ナリ。故ニ儒釋道ノ三教ヲ要トスベカラザルモノナリ。然カクノゴトクタリトイヘトモ。唯一ノ潤色ノタメ。神道ノ光華ノタメ。廣三教ノ才學ヲ存シ。專吾道ノ淵源ヲ極バ。ナンノ妨カアランヤトイヘリ。夫儒佛ノ教イマダ本朝ニワタラザル前ハ。唯神道ノミニテ。事調。然バスナハチ佛ニ習合シ。儒ニ習合スルニハ及ベカラザル歟。答蓋按ズルニ。唯神道ノミヲ修シテ或ハ高天原ニ達セント欲シ。留坐ト云。神代口訣ニ云。高天ノ原トハ。空虚清淨ノ名。人ニ在ハ一念ナキ胸中ナリ。兼俱神代鈔ニハ。當流ノ習ニ。虚空ヲ云ナリト。又纂疏ニハ。天上ヲサスト云々。但シ處ニヨリテカハリアリ。神道名目類聚抄ニ伊弉諾伊弉冊ノ高天原ニ坐ナド。説。又高天原ニ所生神ノ名ヲ天ノ御中主尊ト申スナドアルハ。上天虚空ヲ指。又常世又暫高天ノ原ニマウデ。姉ノミコト。相マエテナト玉ヘルハ。皇居ヲサステイヘリ。又常世ノ郷ニ到ト願ナド。命ノ常世ノ郷ニイタリ玉フトハ。繁花ノ地ヲ去。靜ナル地ニカクレテ。長生シ玉フヲ云。又垂仁帝ノ御宇ニ田道間守ト云人。常世ノ郷ニイタリ玉フト云。仙境ヲ指トイヘリ。又ナラ密意アルベシ。ツ、シムテ正人ニタツヌベシ。スル人一心ニ神ノ教ニシタガヒテ。修スルコト。佛法ノ中ニ一相一行門ヲ修スルガゴトクナレバ。兎角習合ナラデハト云ニハアラズ。神託ノ中ニモ。スグレテ貴御言ドモ侍。ヨクコレヲ察。テナヲ深意ヲ傳ベシ。六根清淨ノ大穢。又ハ中臣ノ穢ノゴトク。科戸ノ風ノ天ノ八重雲ヲ吹拂事ノゴトク。朝ノ霧ヲノ霧ヲ。朝ノ風夕ノ風ノ吹拂支ノコトク。乃至遺ノ罪ハ。アラジモノ

ソト。穢申清申ナド。天津罪國津罪ヲ。悔撥コトハ。マコトニ斷惡修善ノ要法ゾカシ。又白山比咩大明神ノ託宣ニ。益人ヨ。慥ニ持。天地ノア

④09オ

イダニ偽。曲モノ入ベキトコロナシ。乃至ナスコトアレバ。ナスコト起ナリ。ソレ吾國ハ三界ノ中ニハ。スグレタル處ナリ。故ニモロ々ノ神明。モロ々ノ清人等ノ魂。コ、ヲ忝コトナシ。惡カルコトヲシテ。根ノ國ニ入ヲツルコトナカレ。或人ノ云。ナスコトアレバ。ナスコトヲコトハ。蓋善ヲナセバ。善事ナラン。一説ニ正神ノ住ヘル本國。又上總國玉前大明神ノ託ニ云。諸人ヨ。理ニ逆コトナカレ。理ニサカヘバ。天ノ神ノ心ニタガフゾ。理ト云ハ天ナリ。地ナリ神ナリト思ベシト又清和天皇ノ御ユメニ。能登ノ國比咩大明神ノヨミ玉ヘルトテ。御記ニアソバシケル歌。天ニナラヒ地ニ受タリシ

④09ウ

人心。曲ザリセバ即ノ神トノ玉コト思合侍リヌカ、ル神託。アゲテシルスベカラズ。兎ニモ角ニモ。心正直ニシテ。止惡修善ノ思ニ住シ。天地ノ理ニ合ナンゾ神ノ愛サセ玉フナレシカラバ。又儒佛ノ教ヲ強誘嫌ベキ理ニアラザレバ。大織冠モ右ニシルスガゴトクニノ玉フナラン。然ニ今ノ唯一者流ノ中ニ。動書ヲ著。人ニ教ニモ。先佛ヲソシリ。儒ヲ賤。又儒ノ佛ヲ誹モノ。或ハ事ヲ神道ニ寓テ。大ニ佛道ヲ謗コト慮アルベキコトゾカシ。蓋以ニ。世ノ運モ推移ニシタガヒツ。盛衰通塞アツテ。人ノ機モ剛柔好惡異ナリ。是ヲ以テ恣ノ興コトモ。亦時ニ乘シテ次第アリ。タトヘバ九峰集ニ大覺ノ蓮禪師ノ言ヲ畧シテ引ニ。生民アツテヨリコノカタ。三皇ノ世ハ。人ノ心ナヲ淳ニ。質撲ナレバ。ソノ教モ簡ニシテ。素ナキハ。四季ニトツテハ。初春ノゴトシ。情識稍コマヤカニ。ステニ五帝ノ時ニ至ハ。ソノ教。詳ニシテ文ナルバ夏ノコトシ。禹湯文武ノ時ニヨイテハ。時世異ニシタガツテ。人情モ偽ユケバ。ソノ教密ニ嚴ナルハ秋ノゴトシ。ステニ秦漢ノ世ニ至ハ。邪惡逆罪イタラズト云コトナシ。コノ故ニ極刑ヲ以コレヲ懲ストイヘトモ。隱惡益熾。コ、ニヨイテ。佛ノ教イタツテ。性命ノ理。解脱ノ道ヲ説。善惡

因果ノ理ヲ明ハ。冬ノ萬物ヲヨク藏。又發生ノ機ヲ含ニ似タリ。夫四時循環シテ。萬物ヲ生ズルガゴトク聖人ノ教ヲ設ハ。タガヒニ扶アヒテ。天下ヲ化成セントナリト云々コレニ例スルニ。タトヘバ天神七代ノゴトキハナヲ渾然トシテ云ベキコトナシ。所謂天元天妙謂ナル歟。スデニ天神

④10ウ

ノ季。地神五代ニ及ハ。條然トシテ既ニ記ベキコトアリ。所謂地元地妙タリトイヘトモ。天元天妙ニクラブレハ。漸次ニシテ。スデニ籠ヲ帶ナラシ。然トモ或ハ光明端嚴ニシテ。神通變化シ。壽命長遠ニシテ。天下無事ナリ神代ノ風。二千餘載ノ下。人ヲシテナヲ凜然タラシム。人代ニ至ニ及。壽命短促ニシテ風俗大ニ異。命。八十三萬餘年ナリ。然ニ人代ノ始。御子ノ神武天皇ニ至。俄ニ壽命短ナリ。帝モ僅二百二十七歳タモセ玉ヒス。神皇正統紀ニモ。カクニハカニミジカクナリニケルコト。疑人モアルベキニヤ。サレド神道ノ支ヲシテハカリガタシマコトニ盤長姫祖ケルハ。ニ。壽命モ短ナリシカバ。神ノフルマヒニモカハリ。ヤガテ人ノ代トナリヌルニヤ。天竺ノ説ノゴトク次第アリテ。減ジタリトハミズトカハレタリ。磐長姫ノ謂ノコトハ。神代ノ卷ニミエタリ

モノ、名モカハリモテユキ。神代ニハ。至尊ヲ尊ト稱ジ。ソノ次ヲ命ト名ヅク。人代ニ及事モ多。軍ナドモ起キ。宇麻使問見ノ命軍シカレ。然トモ神代ノ風儀ノコリテ。神モナヲ化現シテ。皇化ヲ扶タマヘリ。天照皇太神ノ武甕槌ノ神ニ勅シ

④11ノ15オ

ヘバ。乃高倉下ノ命ニ劍ヲサツケテ。羣邪ヲシリゾケ。武津々身ノ命ノ三種ノ神器ト。ナヲ八咫鳥トナリ。或ハ金色ノ鷗ノクダリテ。帝軍ヲモルガゴトキ是ナリ。三種ノ神器ト。ナヲ床ヲ同シ玉ヒ。皇宮神宮。一ナリシカバ官物神物。サラニ二分ナカリキ。コレニヨツテ天兒屋根ノ命ノ孫天ノ種子ノ命天ノ太玉ノ命ノ孫。天富命。專神事ヲツカサドレルコト。神代ノ例ニコトナラズトイヘリ。コレ神ト人トノ境ヨク思ベシ。コレヨリ神ハ益幽玄ニシテ。人ト遠ユキ玉ヒ人ハ轉情偽濃ニナリテ。我心ノ神ヲクラマスレバ。神明ノ舍モ。跡ノ白雲トヘダ、リユキヌ。第十代崇神天皇ノ御宇ニイタツテ。ヤンゴトナキ御位ニ在トモ。神器ト床ヲ同シテ在ヲ。恐憚セ玉ヒテ。別ニ鏡劍ヲ鑄換サセ玉ヒ。真ノ神寶ハ皇女豊鋤入姫ノ命ニツケテ。大和ノ笠縫ノ

邑ニアガメタテマツラル。前ニイダス。是神ト

④11ノ15ウ

人トノ隔ノサマ。一種系聯ノ天皇。スデニカクノゴトシ。何ニ況地下ノ人ヲヤ。夫天神七代ノ季。伊弉諾伊弉册ノ尊ヨリ。五倫ノ條分タリ。父子夫婦兄弟。スデニ五倫アツテ。其道。行トイヘトモ。心淳ニ。事簡ナリ。ユヘニ天下無爲ニシテ。ヨク久ク治。人代ニイタルニ及。人ノ心漸

黒シテ。五倫ノ道倍ミダレテ。所謂人元人妙モ偽ト俱ナリ。ユヘニコレヲ教導人。ソノ事繁シテ。其言。詳ナリ。然トモナヲコレヲ

齊コトアタハズ。コノ故ニ禮樂ヲモツテ。コレヲ和シ。刑罰ヲモツテコレヲ懲。其要ミナ五倫ヲ正ユヘンナリ。夫神道漸流テ。儒教ニ入コトハ。其勢ノ然シムルナリ。故ニ應神天皇百濟國ノ儒士ヲ用テ。其教ヲ

弘ツ。天下ヲ治玉ヘリ。儒士ノ名前ニイツ。第七代孝靈帝ノ時。五

④16オ

アレトモ。コレヲボツカナキコトナリ。但徐福ガ本朝ヘワタリシ時。古文ノ尚書ヲ持来ト云コト。歐陽公ガ日本刀ニ題スル歌ニミエタリ。又徐福ガ本朝ヘワタリシト云コト。義楚六帖劉氏鴻書焦氏筆乘史記ノ註ナドニモミエタリ。ソレユヘ大明ノ大祖高皇帝ノ時。天龍寺ノ絶海ニコノコトヲツネ玉ヒス。絶海即席ニ詩ヲ賦スルニ云。熊野峯前徐福祠。時ニ御製ノ尊和アリ。共ニ中華若木詩ニノセタリ。最熊野ニ徐福カ祠ト云コト。今ニアリ那波氏道圓熊野參詣ノ時。カノ祠ヲツネテ。七言絶句ヲ題シコト。活所遺棄ニノセタリ。和漢トモニカクハヘド。又徐福日本ヘワタラズ。ソノ船夷州漳州ニ漂墮シテ。五百ノ童男女トシテ。後ニ會稽ノ市ニイデシヲミツルナドノ説モアレバ。タシガニモキハメガタシトカク久コトナレバ。一定ナラヌニコソ。親房卿ノ云。孝靈ノ御時ヨリ。コノ國ニ文字アリトハキカヌコトナレド。上古ノコトハタシカニシルシトメザルニヤ。應神ノ御代ニワタレル經史ダニモ。今ハミエズ聖武ノ御時古備大臣入唐シテツタケケンコトモアナガチウタガウマジキニヤト。サルコトゾカシ

サレバコノ天皇。人皇第三十代欽明天王御代ニ始テ神トアラハレ玉ヒテ。肥後ノ國菱形ノ池ト云トコロニ顯玉ヒ我ハ人皇十六代嘗田ノ八幡丸トノ

玉ヒヌ。嘗田トハ。本ノ御名。八幡ハ垂跡ノ號ナリ。按ズルニ。嘗田ト云ハ。韃

ヂニツケテ。弦ヲウクルモノナリ。コノ天皇ムマレサセ玉フトキニ。御肉ノ腕ノ上ニ生ヌルコト。神功皇后ノ雄裝シ玉ヒヌルトキニ。韃ヲ帶玉ヒヌルサニ似タレハ。名ツケテタマツレリ。又八幡ト申奉

④16ウ

性。樂八正道。垂。權。迹。皆得。解。脫。正。定。正。念。正。命。是。ナリ。宇。佐。緣。起。中。ニ。ハ。筑。前。ノ。宮。崎。ニ。八。幡。宮。アリ。昔。白。幡。四。流。赤。幡。四。ナ。ガ。レ。コ。ニ。ク。ダ。ル。ユ。ヘ。ニ。八。幡。ト。名。ヅ。ク。松。下。植。テ。標。ト。ス。今。ニ。至。ナ。ヲ。アリ。ト。イ。ヘ。リ。神。社。啓。蒙。ニ。ハ。コ。ノ。コ。ト。ヲ。信。ゼ。ズ。タ。ダ。八。幡。ヲ。モ。ツ。テ。地。ノ。名。ト。ス。然。ト。モ。神。物。變。化。ノ。妙。ナ。ン。ゾ。ウ。タ。ガ。ウ。ベ。ケ。ン。又。或。説。ニ。八。方。二。八。色。ノ。幡。ヲ。タ。テ。一。行。コ。ト。ア。リ。密。教。ニ。西。方。阿。彌。陀。ノ。三。昧。耶。形。ト。ナ。ラ。ヘ。リ。八。幡。大。菩。薩。ノ。御。本。地。相。應。ノ。因。緣。ナ。リ。ト。ゾ。正。統。紀。ニ。モ。神。明。ノ。本。地。ヲ。云。コ。ト。ハ。タ。シ。カ。ナ。ラ。ヌ。タ。ダ。ヒ。ラ。ホ。ケ。レ。ド。大。菩。薩。ノ。應。

跡ハ昔ヨリ明ナル證據ヲハシマス乃至中ニモ八正ノ幡ヲタテ、八方ノコノ御代ニイタツテ。衆生ヲ濟度シ玉フ本誓ヨク思入テツカウマツルベキニヤトイヘリ。又百濟國ヨリ。始テ佛法ノワタレルコソ不思議ナレ。其ユヘハ或人ノ云ク應神天皇已ニ本覺ノ都ヲ出。假ニ小王身トナリ玉フ。時ニ神風スデニ吹荒テ。蒼生ノ情。ミダリニ茂ナントス。コノユヘニ先儒ノ教ヲ弘。以人道ヲ正玉ヘリ。仁徳天皇熙コトヲ緝。禮讓儉約ヲ本シ。民ノカマドヲ憐テ。仁政ヲ絶玉ヘリ。後世モ遙ニ仰慕タテマツルコト。併是神聖ノ道ヲ聞學玉ヘル徴

④17オ

ナリ。旧事本紀ニ天ノ隱山ノ命。皇ニ奏シテ云天孫天上ニヲハセシ時。亦ハ降臨シ玉ヘル時。臣コレヲ奏シテ。天孫ノ聰ヲ得テ。コレヲ奉ジ。嗣世ノ鑑トナツテ。代々ノ政ヲ相シント。皇大ニヨロコビテ。コレヲ記シム。勅シテ曰。善哉大儒。皇ノ政事專斯ニアリ。コレヲ人王ニ至。政ヲ行。儒業ヲ定ソノ元ナリトイヘリ。コレ神道ニツイデ。儒教世ニ興。互ニ相助ユヘンナリ。儒道ト習合スル趣。心ヲ得テ知ヘシ。然ニ。聖君賢臣。代々ニアラザレバ。舜倫ノ道モ漸ミダレ。利欲奢侈至ズト云コトナク。悖逆争鬪益興。武烈天皇ニイタツテ大ニ不道ニ在テ。種々ノ惡行ヲナシ玉ヘリ。上ヲ學下ナレバ。惡ヲ好モノハ彌多善人モウチ蔽テ。聖賢ノヲシヘ行ス武烈天皇崩ジ玉ヒテ。繼躰天皇即位シ玉フ。

④17ウ

コノ帝賢徳在テ。又仁政ヲ興玉ヘリ。コノ時百濟國ヨリ。五經ノ博士。段楊爾來朝ス。イマダ其化ノ行ヲキカズトイヘトモ。定知天皇コレヲ用玉ハンコトヲ。然築紫ノ造磐井ト云モノ謀反ヲヨコシ。近國ヲ捕掠ケレバ。物部麿麻火ノ大連ニ詔シテ。コレヲ追討セシム。コレニヨツテ都鄙穩ナラズ。次年兵亂シツマリヌ。カクテ天皇位ヲ安間天皇ニ讓セ玉フ。コノ御代又ヨク治ヌ在位二年ニシテ崩ジ玉ヘリ。次ニ

宣化天皇位ニ即玉ヘリ。コノ時大伴ノ磐及狹手彦ヲシテ任那ノ兵亂ヲスクハシム。時ニ新羅ヨリ任那ヲ侵テ。加勢ヲ乞ユヘナリ。次欽明天皇御宇。コノ御代即位十三年壬申十月二百濟國ヨリ。佛法僧ヲ渡ヌ。釋尊入滅ノ後一千十六年目ニ。コノ國ヘ始

④18オ

テ。傳來セリ。按ズルニ後漢ノ明帝永平十年ニ佛法始テ漢朝ニワタル。ソレヨリ本朝ヘワタレル壬申ノ年マデハ。四百八十八年ナリ。唐ニテハ。北朝ノ齊ノ文宣帝即位三年。梁ノ文帝モ又即位三年ニアタルナリ。コレヲ以テツラツラ觀ズルニ。神代スデニスギテ。人情日ニ熾。コノユヘニ儒教叮嚀反復ニ五倫ノ道ヲス、ムルヲ以テ。八幡大菩薩コレヲ弘テ。世ノ政ヲ輔玉フ。然トモ人來世アルコトヲ知ザレハ。因果ヲ恐ズ。コノユヘニ私ニ惡ヲナシテ。指アタリタル。快樂ニ耽モノハ多。五常ヲ正シテ。天理ニ順シトスル人ハ稀。儒教因果ヲ言ザルニハ非。易ノ坤ノ卦文言ノ積善ノ文尚書ノ伊訓ノ善ヲナセバ祥ヲ降ノ文ノゴトキハ。人ノ多知處ナリ。又孔子ノ曰。善ヲ爲モノハ。

④18ウ

天コレニ報ニ福ヲ以シ。不善ヲナスモノハ。天コレニ報ニ禍ヲ以スト。又曾子云。出二乎爾一者反二乎爾者也。孟子孺子滄浪ノ歌ノゴトキ。コレ善惡ノ報自作テ。シカモ自作ナリ。呼乎天理人心ノ欺ベカラサルコト。カクノゴトシ。コノ世ニスデニ善惡因果ノ理。空スト信セバ。ナンゾ延後世ニイタルコトヲ疑ンヤ。神魂滅セバ已。佛教ハ具ニ神魂滅セザルコトヲ説明。神魂果滅セズンバ。自作自受ノ報アニノガル、コトヲ得ンヤ。所謂儒ハ唯天人ノ理ヲ明シテ。人道一世ノ教ナリ。三世六道輪廻昇沉。博ハ無始劫。盡未來際ヲ演コトハ。佛教ノ詮ズル所。故ニ其說宏長ニシテ。多端ナリ。寬優沉潛ノ。識量アルモノニアラズンバ。容易其旨ヲ得ガタシ又佛教タゞ解

④19オ

脱ヲ説ノミニアラズ。世ノ政ニヲイテモ。大ニ輔トコロアリ。宋ノ何尚之文帝ニ答ルガゴトキ。夫百家ノ郷。十人五戒ヲ持トキハ。十人淳ニ謹アリ。千室ノ邑。百人十善ヲ修スルトキハ。百人和睦ス。人ヨク一善ヲ行ズルトキハ。一惡ヲ去トキハ一刑ヲ息。一刑家ニ息ハ。萬刑國ニ止。コレ明旨ノイハユル。坐太平ヲ致ト云モノナリト云。文帝ノ侍中何尚之ニ玉ヲ范泰謝靈運ツネニ言。六經ハ。本俗ヲスクフニアリ。若性靈ノ真要ヲモトムルトキハ。必佛理ヲモツテ指南トスト。近ゴロ顔延之ガ折達性論ト宗炳ガ難白論ヲミルニナラヒニ明ニ至理ニ達シテ。人ノ意ヲヒラキス。ム若率土ミナクノ化ニシタガハハ。朕坐太平ヲ致ント。又宋ノ孝宗ノ玉ヲ。答ルトコロノ文ナリ。具ニハ宋史ニイテ。又佛法金湯編輔教編等諸書ニイツ。又宋ノ孝宗皇帝原道ノ辨ヲ製シテ云。佛ヲ以ハ心ヲ治。道ヲ以ハ身ヲ治。儒ヲ以ハ世ヲ治ト。又無盡居士ノ護法論ニ。儒ハ皮膚ヲ療ジ。道ハ血脉ヲ療ジ。佛ハ骨髓ヲ療ズ

④19ウ

ト。三教平心論ニ劉靜齋ココレヲ引云カクノゴトクナレバ。三教ア二一トシテ。用ベカラザルコトアランヤトイヘリ。空谷禪師法華華嚴ノ文ヲ引佛法世間ノ法ニ。背ザルコトヲ明。又老子ノ民ヲ愛。國ヲ治コト。アニコレ無爲ナランヤノ文ヲ引。佛老モトヨリ三綱五常ヲ外ニスルニアラザルコトヲ辨ズ然トモ儒ハ三綱五常ヲ表トシテ。道ヲ明スルコトハ。コレヲ兼。釋宗ハ見性悟道ヲ先トシテ。三綱五常ハコレヲ兼。衆人ハコレヲ觀コト同カラザルニ似トモ達人ハコレヲ觀ズルコト。實ニ同ト云々。然レトモ三教異同ノ論ハ。廣諸書ニ辨ズルガゴトシ。コ、ニツフサニ論定シガタシ。所謂智者ハコレヲ見テ。コレヲ智ト云。仁者ハコレヲミテ。コレヲ仁ト云。コノユヘニ或ハ山ヲ樂。又ハ水ヲ樂タミ各樂。トコロニツイテ。自省ヘシ。アニ山ヲ樂モノ。水ヲ訕。水ヲ樂モノ。山ヲ謗ヤ。又ソレ佛法ノ政ニ輔アル。或ハ佛名ヲ誦ジ。咒ヲ唱テ。暗ニ諸佛菩薩護法善神ニ祈。天下安全。國民豊樂。五穀成熟ヲ要。乃至雨ヲ祈。疫ヲ逐。妖ヲ退。災ヲ攘。佛圖澄ノ石氏ガ暴惡ヲ弭。鄧隱峰ノ兩

陣ノ鋒ヲ和ルノ類ハ。其ニ高僧ニ出是國ヲ憂。政ヲ輔ノ至ナリ。又玄奘法師世ヲ公日。唐ノ高宗ノノ玉ハク。朕國ノ寶ヲ失ト。而朝ヲ輟コト三日。又代宗南陽ノ忠國師ヲ指テ曰。國中ニ寶ナシコノ僧ハ國ノ害也ト。凡歴代ノ明王佛法ヲ信敬シ玉フコト本朝ハ且置。漢ノ明帝ヨリ已降一々枚舉スベカラズ。隋ノ文帝ノ曇延法師ヲ稽顙シ。梁ノ武帝ノ審誌和尚ヲ信仰シ姚秦ノ羅

什ヲ崇。符堅ノ道安ヲ師トシ晉主ノ慧遠ヲ敬陳隋ノ智者大師ヲ禮敬スルガゴトキ。世史僧傳ニ載トコロナリ。四朝高僧傳中。宋朝ニ至ニ及。儒學寢起。間又佛法ヲ排斥セントスル人アレトモ。宋ノ太祖ヨリ相ツイデ。大宗真宗仁宗等。是ヲ護法信敬シテ。儒佛兼行。コレアニタミ因果輪廻ノ説ヲ信ジ恐ノミナランヤ。即今政道ニ便ナレバナリ。其外代々ノ宰相。士大夫ノ歸敬スル。其名シルス。ニイトマアラズコノ現當ノ利益アツテ。天下人民ノ畢竟ノ依ドコロトスルニ堪タレバ。本朝欽明帝ノ代ニイタツテ。佛法我朝ニワタリシニ。八幡大菩薩コノ御代ニアタツテ。初帝王ノ御身トナツテ。先儒ヲ弘玉ヘル應化身ヲ轉ジテ。忽宇佐八幡神トアラ

④20ウ

ハレサセ玉フコト。蓋是化ヲ佛法ニユヅリ玉フコト。ナヲ天照太神ノ大倭姫ニ託シテ。如來ニ讓トノ玉フガゴトシ。全文前カクテ佛法彌瀾ツハ。桓武天皇ノ時ニ至。延暦元年ノ夏。八幡神宇佐ノ祢宜ニ託スラク。我無量劫ヨリコノカタ。三有ヲ化生シ。善巧方便ヲ修シテ。諸ノ衆生ヲ濟度ス。我名ヲ大自在王菩薩トイハントノ玉ヘリ。コノ夏五月ニ宇佐ノ祢宜京都ヘノゴトシ。願ハ大神ヲ以テ大菩薩トセントイ。是ニツイテ。初テ久修佛法ノ本因ヲ顯ヒスレバ。帝詔アツテ許容シ玉ヘリト云。味ヲ受スシテ。久歳華ヲ歷。今微言ヲウク。ナニヲ以カ徳ニ報ゼン。我ニ法衣アリ。願ハホドコサントノ玉ヒテ。紫衣ニ領ヲイダシ玉ヘリ。一ツハ袈裟。一ハ袈裟。コレ等ノ類。コレ神官大ニ驚嘆ス。コノ衣今ニ山院ニアリトイヘリ。具ニ釋書ニミエタリ

④21オ

神道ト。佛汰ト。強習合スルニアラズ。神自其本因ヲ。著シ。又

④21ウ

佛道ニ隨順シ玉ヘルナリ。謹粗本朝ニ宗廟ノ神ノ。儒教ヲ扶。佛道ニ歸シ玉フ。因縁ヲ舉テ。且三教敬べく。修スべく。歸スベキユヘンノ端ヲヒラク。具ナルコトハ。各ソノ經傳アリ。宜志ヲ正シ。懷ヲ虛シテ。反復沈潜セラルベシ。其餘ノ神祇ノ佛ニ歸シ。善ニ與シ玉ナル。山王權現。春日大明神。賀茂。北野ノゴトキ。其事廣レバ。一々シルスニイトマアラズ。サレバ宇多ノ天皇ノ曰。吾國ノ人ノ專ニツトムベキコト三アリ。第一ニハ神明ノ掟。第二ニハ佛ノ教。第三ニハ世々ノ聖ノ制戒ナリ。善事ニ來ズ。ソノナスコトニ來。惡コトミダリニ來ズ。ソノナスコトコロヨリ來ナリ。シカラバナソ善ヲ勸テ。惡ヲ退ザルヤ。惡ハ馴ヤスク。善ハス、ミカタギユヘナリト。コノ天皇ノ御言マコトニ三教ヲ並敬。

④22ウ

善惡ノ因果ヲ信ジ。斷惡修善ノ意樂ニ住シ玉ヘリ。コノ帝ハ光孝天皇第三ノ皇子ニテワタラセ玉フ。積書ノ王臣ノ部ニハ。仁和第七ノ子トナシ。又資治表ニハ仁人皇五十九代ナリ。下ノ卷ニ及賢王ニテ在。御言ノゴトクニ。三教ヲ信ジ行セ玉フ。菅原相ノイマダ御年若ニヲハセシヲ用サセ玉ヒ。勅シテ類聚國史二百卷ヲ撰ゼシメ。又學士紀ノ長谷雄ヲ召テ漢書ノ講ナドヲ聞玉ヒ。又巨勢ノ金岡ニ命ジテ。歷代ノ鴻儒ノ詩文ニ堪タル像ヲ。皇居南ノ庇。東西ノ障子ニ畫メ玉フ。是儒ヲ崇。文ヲ用玉フコトヲ示セルナリ。最天地神明ヲ敬玉ヒ。元朝ノ四方拜モ。コノ御代ヨリ始レリ。又寛平二年五月ニ石清水ノ寶藏震動スト奏ス。帝大史ニ命ジテ。コレヲ筮。大史

④22ウ

占文ヲ捧テ云。天子御不預ノ御告ナリト。帝ノ曰。朕至愚ナリトイ

ヘトモ。頗言行ヲツ、シム。况三寶ニ歸依シテ。且暮ニ懺悔ヲ修スレバ。タトヒ微ノ恙アリトモ。大事ニ及ジ。然トモ。カ、ル箴ニ遇テハ。安ヲコタルベキニアラズ。只ソレ天地神明證知シ玉ハンノミト。然ニ時ヲ歴テ。ナニ更モヲハセザリケリ。昔宋ノ景公ノ三善言ヲノ玉ヒ。我身災難ヲ。他人ニ嫁ジトシ玉ヒシニ。天コレニ感ジテ。熒惑星三舍退テ。其身恙ナク。卻齡ノ延タリシコトナド。時ノ君子モイヒシロヒ。カクヤンゴトナキ御身ノ上ニテ。ツネニ言行ヲ慎。修懺ヲツトメサセ玉ヒ。我ト御身ヲ肯セ玉フ程ナレバ。マコトニ災難ヲマヌカレサセ玉フモ。理ナレト。感ジアヘリ。又石清水ノ益御慎ノ爲ニ。凶ヲ示セ玉フ

④23ウ

モ。祈ズトテモ。神ヤ守トノ御シルシナランカシ。コノ年ノ十二月ニ石清水託宣マシマシテ。菩薩ノ道具ヲ求サセ玉ヘリ。前ニコレアニ神慮ニ叶玉フシルシニアラズヤ。コノ帝ハ御幼時ヨリ。三寶ヲ信敬マシマシテ。御膳ニ腥羶ヲ嫌ハセ玉フ叡山ナドヘ登玉ヒテ。僧ノ境界ヲ羨ク思シ入サセ玉ヒテ。歸セ玉フヲモ忘サセ玉ヘリ。コノユヘニコノムデ諸寺ヘ渡セ玉フ。御母ハ二品式部卿仲野親王ノ御娘ナリ。帝十七歲ニナラセ玉フ時ニ。出家センコトヲ許玉ハンヤト窺ハセ玉ヘバ。太后曰。汝ガ志。貴トイヘトモ。シカレトモ出家センコト。イマダ晩ズ。大屋寺ニ應俊法師ト云人。ヨキ沙門ナリトキ、ヌ。汝マツ試ニ。カノ人ニ事ミヨトノ玉フ。帝又父仁和帝ニ光孝ウカ、ハセ玉フ。父帝コノ時イマダ位ニツカセ。即玉ハズ。ヨツテ曰。善哉々々。

④23ウ

三畜ノ數ニ墮トス。且世間ノ相ヲ見ソナハシテ。次第ニ沙門ノ威儀ヲ成ゼヨトノ玉フ。カクテ數月ヲ歴テ。思ノ外ニ仁和帝位ニ即玉ヒヌ。陽成ノ位ヲ下玉フユヘニ。コノ故ニ御志ヲ遂サセ玉ハズ。年月ヲ送セ玉フ程ニ。

三年ヲスギテ仁和帝御讓位アツテ。ツイ二位ニ即玉ヘリ。コレ天命ノ御身ニ備タルナルベシ。スデニ萬機ノ政ニノゾマセ玉ヒテモ。三審帰敬ノ御心ヲコタラセ玉ハズ。或ハ孟蘭盆供ヲ諸寺ニ行シメ。或ハ灌佛會ヲ宮中ニ設玉フ。仁和寺ヲ建立在ヌ。仁和四年秋。寶閣巍然トシテ。前二輝リ。後二輝。密嚴鞏固ノ道場トナルコト。誠ノ御心ノアツケレバナリ。世モ穩ニ治。玉體モヤスクヲハセシハ。三教ヲヨロシク用サセ玉ヘルユヘニアラズヤ。然心性ノ源ニ徹シテ。終ノ解脱ヲ得。

佛法ニ如コトナシトヤ。思召ケン。御治世十年ヲ經テ。御位ヲ敦仁親王ニ讓玉ヒ。昌泰二年。十月十四日ニ。ツイニ益信法師ニヨツテ。御本意ノゴトク。御出家遂サセ玉ヒ。受戒灌頂マデヲ。セサセ玉フ。カクテ仁和寺ニ御室ヲ營セ玉ヒテ。法味ヲタノシマセ玉フ。法ノ諱ハ空理ト申タテマツリ。又ハ寛平法皇トキコヘサセ玉フ。後ニ又天台宗ノ増命ニ叡山戒壇院ニテ。圓頓戒ヲ受サセ玉ヒ。御修行増ス、マセ玉ヒテ。御灌頂ヲ稟人多。寛空僧止。弟子ノ寛朝。淨藏貴所モ。御弟子分ナリキ。吁萬乗ノ主トシテ。金殿玉樓ニ棲玉ヒツ。後宮二千ノ色ニ冊玉ヒ。七寶ノ莊。百味ノ珍ヲ樂玉フモ。タゞ是春ノ夜ノ夢ノ戯ナリ。タトヒ須彌ノ四洲ノ主ノ金輪王トナレルモ。限アレバミナ無常

轉變ヲノガレエズ。シカレバスナハチ。早コノ理ニ達シテモシクハ富貴自在ノ身ニムマレタリトモ。ホシイマ、ニ生死輪廻ノ妄業ヲツクツテ。ナガク惡趣ノ苦ヲ受ハ固ニ悲イタムベキコトゾカシ。然ニコノ帝御幼稚ノ御時ヨリ。出離ノ御心ヲハシマシ。思カケザル九五ノ御位ニ昇玉ヒテハ。其々ノ道ヲ用テ。天下ヲ泰山ノ安ニ置。時ヲ待ツイニ御本懷ヲ遂サセ玉フ。思ニ是宿ニ深善根ヲ植サセ玉ヘルユヘナランサラズハ大權聖

者ノ願力ニ乗シテ來玉ヘルカ。其御誓ニ昔人君タリシ時。萬姓ノ作惡皆我ニ歸シ。今佛子トナル。一身ノ修善。普他ヲ利ストノ玉フ。御心知ヌベシ

#### 佛神感應錄卷第四

④ 24 オ

④ 25 オ

④ 裏表紙

④ 24 ウ

(あべ みか 歴史文化学科)  
(おおくぼ みれい 横浜女子短期大学図書館)  
(つかもと あゆみ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)  
(せきぐち しずお 歴史文化学科)